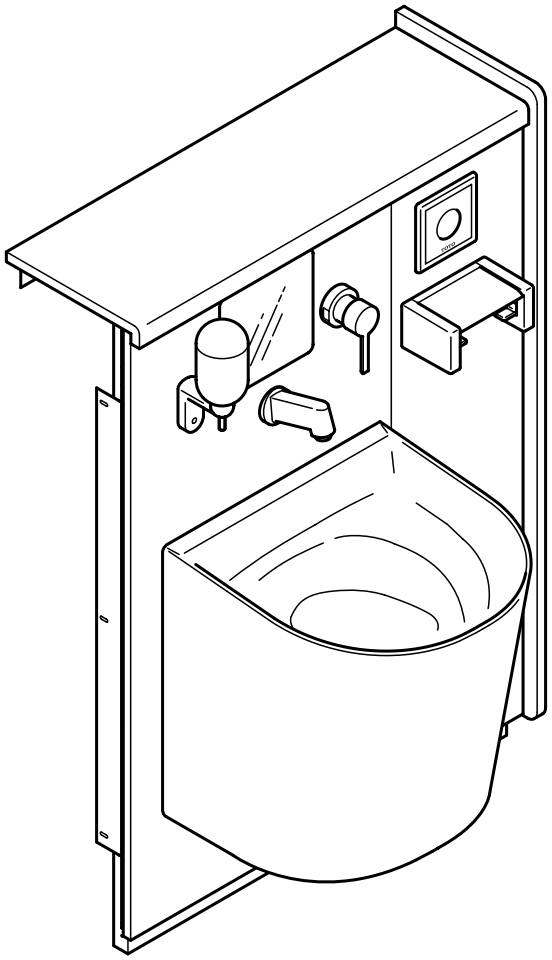
TOTO

施工説明書

オストメイト対応トイレパック

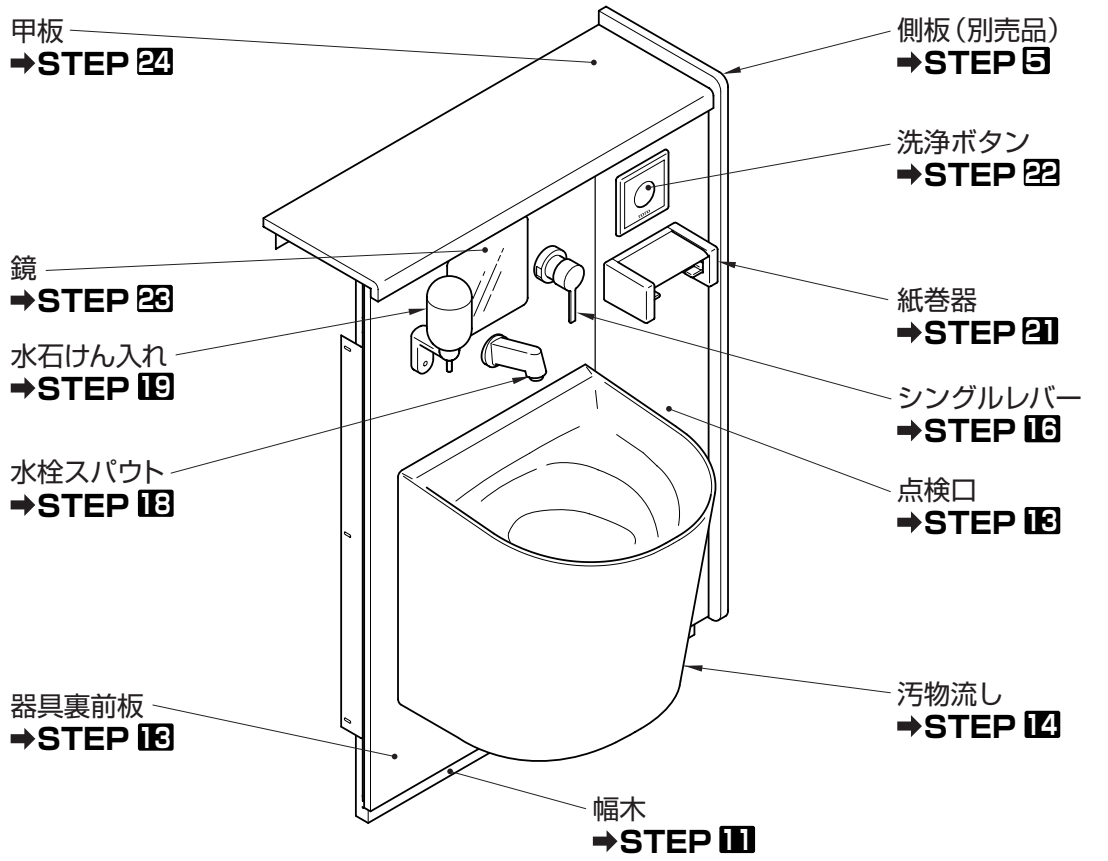
商品の機能が十分に発揮されるように、この説明書の内容にそって正しく取り付けてください。
取り付け後は、お客様に使用方法を十分にご説明をお願いいたします。

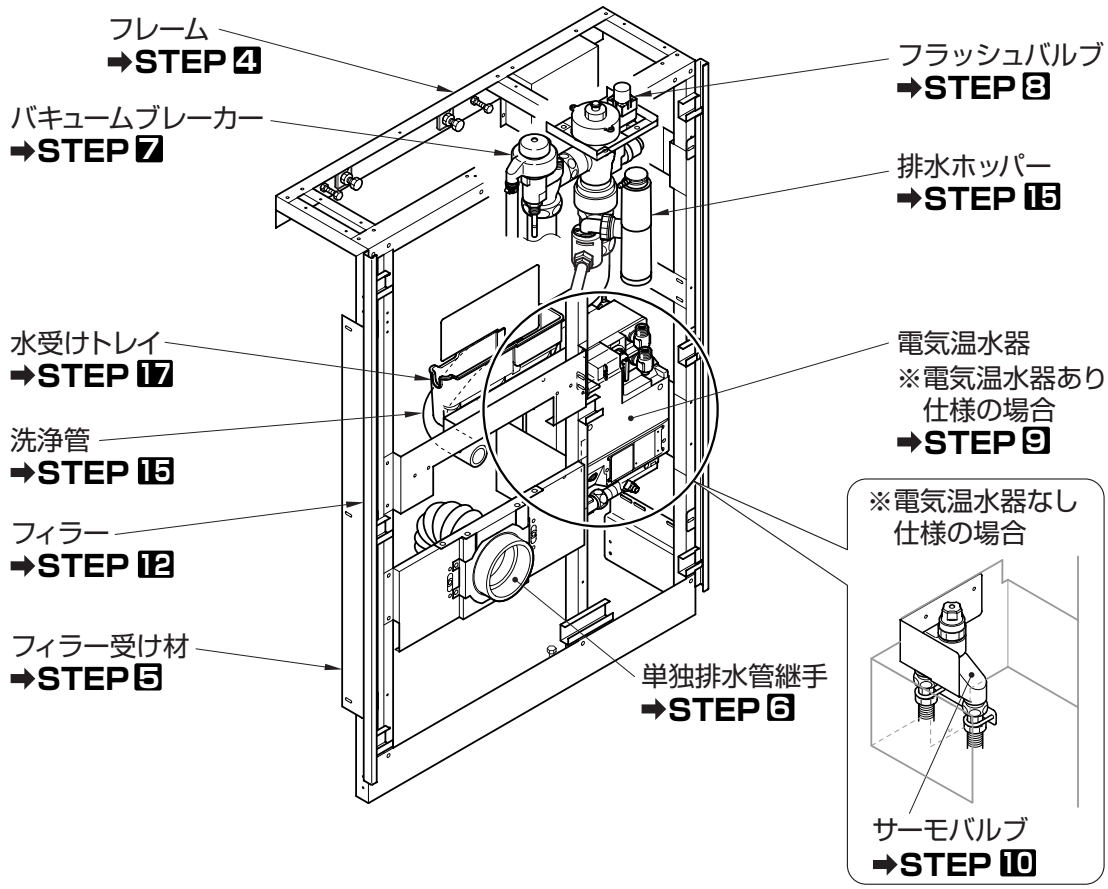


もくじ

各部の構成 ……3
安全上のご注意 ……4
施工にあたって ……6
全体寸法 ……7
必要工具・部材 ……8
取付下地の確認、固定材の準備 ……8
配管、電源・コンセントの準備 ……9
部品の確認 ……14
STEP1　：墨出し ……17
STEP2　：床固定用アンカーの打ち込み ……17
STEP3　：フレーム壁固定の準備 ……18
STEP4　：フレームの設置 ……18
STEP5　：フィラー受け材・側板の取り付け ……20
STEP6　：単独排水管継手の取り付け ……22
STEP7　：バキュームブレーカーの取り付け ……23
STEP8　：フラッシュバルブの取り付け ……23
STEP9　：電気温水器の取り付け ……24
STEP10：サーモバルブの接続 ……26
STEP11：幅木の取り付け ……28
STEP12：フィラーの取り付け ……29
STEP13：前板の取り付け ……30
STEP14：汚物流しの取り付け ……31
STEP15：洗浄管の取り付け ……33
STEP16：シングルレバーの取り付け ……36
STEP17：水受けトレイの取り付け ……38
STEP18：水栓スパウトの取り付け ……40
STEP19：水石けん入れの取り付け ……42
STEP20：結線作業 ……42
STEP21：紙巻器の取り付け ……43
STEP22：洗浄ボタンの取り付け ……44
STEP23：鏡の取り付け ……45
STEP24：甲板の取り付け ……45
取り付け完了後の確認 ……46
仕上げ ……51
使いかたラベルの張り付け ……51

各部の構成


甲板
➡STEP 24
側板（別売品）
➡STEP 5
洗浄ボタン
➡STEP 22
鏡
➡STEP 23
紙巻器
➡STEP 21
水石けん入れ
➡STEP 19
シングルレバー
➡STEP 16
水栓スパウト
➡STEP 18
点検口
➡STEP 13
器具裏前板
➡STEP 13
汚物流し
➡STEP 14
幅木
➡STEP 11


フレーム
➡STEP 4
フラッシュバルブ
➡STEP 8
バキュームブレーカー
➡STEP 7
排水ホッパー
➡STEP 15
水受けトレイ
➡STEP 17
電気温水器
※電気温水器あり
仕様の場合
➡STEP 9
洗浄管
➡STEP 15
※電気温水器なし
仕様の場合
フィラー
➡STEP 12
フィラー受け材
➡STEP 5
単独排水管継手
➡STEP 6
サーモバルブ
➡STEP 10

安全上のご注意（安全のために必ずお守りください）

※電気温水器あり仕様の場合は、電気温水器に同梱の施工説明書に記載の「安全上のご注意」も確認してください。

⚠ **警告**	誤った取り扱いをすると、**「死亡または重傷を負う可能性が想定される」**内容です。
⚠ **注意**	誤った取り扱いをすると、**「人が傷害を負うことが想定される内容、および物的損害の発生が想定される」**内容です。

⃠	してはいけない**「禁止」**の内容を表しています。
❗	必ず実行していただく**「強制」**の内容を表しています。

⚠ 警告

禁止

屋外および傾斜のあるような壁面、振動の激しい場所に取り付けない
取り付けが不安定になり、落下してけがやときに死亡のおそれがあります。

交流100V以外の電源やがたついているコンセントで使用しない
火災・感電の原因になります。

電源コード・電源プラグが破損するようなことをしない。
傷つけたり、加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、重いものを載せたり、挟み込んだり、加熱したりしない
傷んだまま使用すると、感電・ショート・火災の原因になります。

電源コード、電源線の加工（切断・継ぎ足し）を行わない
火災や感電の原因になります。

コンセントや配線器具の定格を超える使いかたをしない
たこ足配線などで定格を超えると、発熱による火災の原因になります。

湯水を逆に配管しない
水を出そうとした際に湯が出てやけどの原因になります。

電気温水器あり仕様の場合
電気温水器の電源コードを束ねたまま使わない
火災の原因になります。

電気温水器なし仕様の場合
給湯温度は85℃より高温で使用しない
85℃より高温でご使用になると、水栓の寿命が短くなり、破損してやけどをしたり、水漏れにより財産に損害を与えるおそれがあります。
なお、やけど防止のため、給湯器の給湯温度は60℃程度の設定をおすすめします。

接触禁止

雷が発生しているときは、電源プラグ、電源線に触れない
感電の原因になります。

分解禁止

この説明書に記載された項目以外は分解・改造しない
破損して、やけど・けがをしたり、水漏れにより財産に損害を与える原因になります。

水場使用禁止

浴室など湿気の多い場所には設置しない
感電のおそれがあります。

ぬれ手禁止

洗浄ボタンや電源プラグ・配線部および端子台などの電気部品に水をかけたり、ぬれた手でさわらない
火災や感電、故障の原因になります。

必ず実行

機器の設置は専門業者が行う。
また、電気工事は関連する法令・規則にしたがって有資格者（電気工事士）が行い、施工時は漏電遮断機を取り付ける
火災・感電や、水漏れにより財産に損害を与える原因になります。

取り付け部には所定の下地を設ける
固定強度不足のため、けがや壁の破損が生じるおそれがあります。

電機関連部品の保守点検を行う場合は、必ず充電源（分電盤ブレーカーもしくは、コンセントを抜く）を切って作業を行う
感電のおそれがあります。

電源プラグや電源線を端子台に差し込むときは、根元まで確実に差し込む
火災や感電の原因になります。
※この作業の前に必ず漏電ブレーカーが切ってあることを確認してください。

壁への固定が完了するまで、十分注意する。
また、各部の固定がゆるんでいないことを確認する
倒れやすく、使用中に落下してけがをする原因になります。

電気温水器あり仕様の場合
電源プラグを抜くときは、必ずプラグ本体を持って引き抜く
コードを引っ張るとプラグやコードが傷んで、火災や感電の原因になります。

電気温水器なし仕様の場合
必ず同梱のサーモバルブを取り付ける。
熱湯をシングルレバーに直接接続しない
水栓から熱湯が出て、やけどの原因になります。

アース接続

アース工事（D種接地工事）を行う
火災・感電や、水漏れにより財産に損害を与える原因になります。

⚠注意

禁止	**甲板や各器具の上に乗ったり、重いものを載せない** 故障やけがの原因になります。	必ず実行	**作業時は手袋、防じんマスクなど適切な防護具を使用する** 予期しないけがをする原因になります。
禁止	**強い力や衝撃を与えない** 破損して、やけど・けがをしたり、水漏れにより財産に損害を与える原因になります。	必ず実行	**汚物流しの持ち運びや取り付けは必ず2人以上で行う** 腰を痛めたり、器具を落として破損してけがをする原因になります。
禁止	**フラッシュバルブの通水路には抵抗となるような部材（オリフィスなど）をつけない** 洗浄性能への悪影響や水漏れにより財産に損害を与える原因になります。	必ず実行	**本製品は寒冷地対応品ではないため、凍結のおそれがある場合は、必ず凍結予防のため保温処理（保温材巻、電気ヒーターなど）を行う** 凍結破損し、水漏れにより財産に損害を与える原因になります。
必ず実行	**各器具の補修を行う場合は、水漏れ防止のため、必ずパイプシャフト内の元バルブも締めて作業を行う** 水漏れにより財産に損害を与える原因になります。	必ず実行	**工事完了後、給排水管から水漏れがないか確認する** 財産に損害を与える原因になります。

施工にあたって

- 本商品は下記のように、いくつかの仕様の組み合わせがあります。
  必ず、施工される製品仕様を事前にそれぞれ確認してください。
  特に①～③の項目に関しては、事前準備・施工手順などが変わってきますので、仕様を間違えないように注意してください。
  （④、⑤の仕様違いでは事前準備・施工手順は変わりません。）

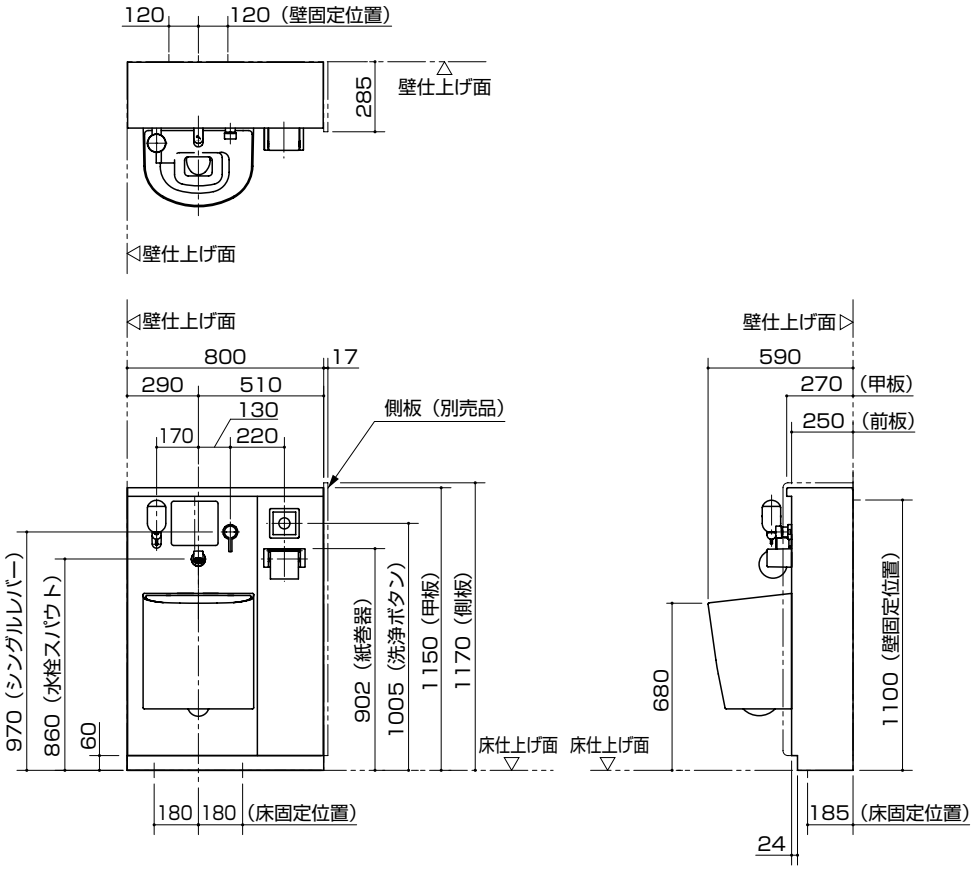
  【製品仕様】
  ①フラッシュバルブ使用水質:『水道水仕様』もしくは『再生水仕様』
  ②左右タイプ:『Rタイプ（汚物流し右寄せ）』もしくは『Lタイプ（汚物流し左寄せ）』
  ※次ページの図面を確認してください。
  ③電気温水器:『電気温水器なし』もしくは『電気温水器あり（おまかせ節電あり）』もしくは『電気温水器あり（おまかせ節電なし）』
  ④洗浄ボタンのプレート色:『ディープブルー』もしくは『グレー』
  ⑤陶器・紙巻器の色:『#SC1 パステルアイボリー』もしくは『#NW1 ホワイト』

- 必ず、商品図・事前施工情報を参照し、取付位置や取付下地など施工条件を事前に確認してください。
  特に、床・壁の傾き、倒れがないことや、配管の立上げ位置を確認してください。
- 不具合があった場合は責任者の方と調整し、不具合を解消後に取り付けてください。
- 電気温水器あり仕様の場合は、電気温水器に同梱の施工説明書も参照してください。
- 本施工説明書では、注記なき場合はLタイプの場合を記載しております。Rタイプの場合も本施工説明書に準じて施工してください。

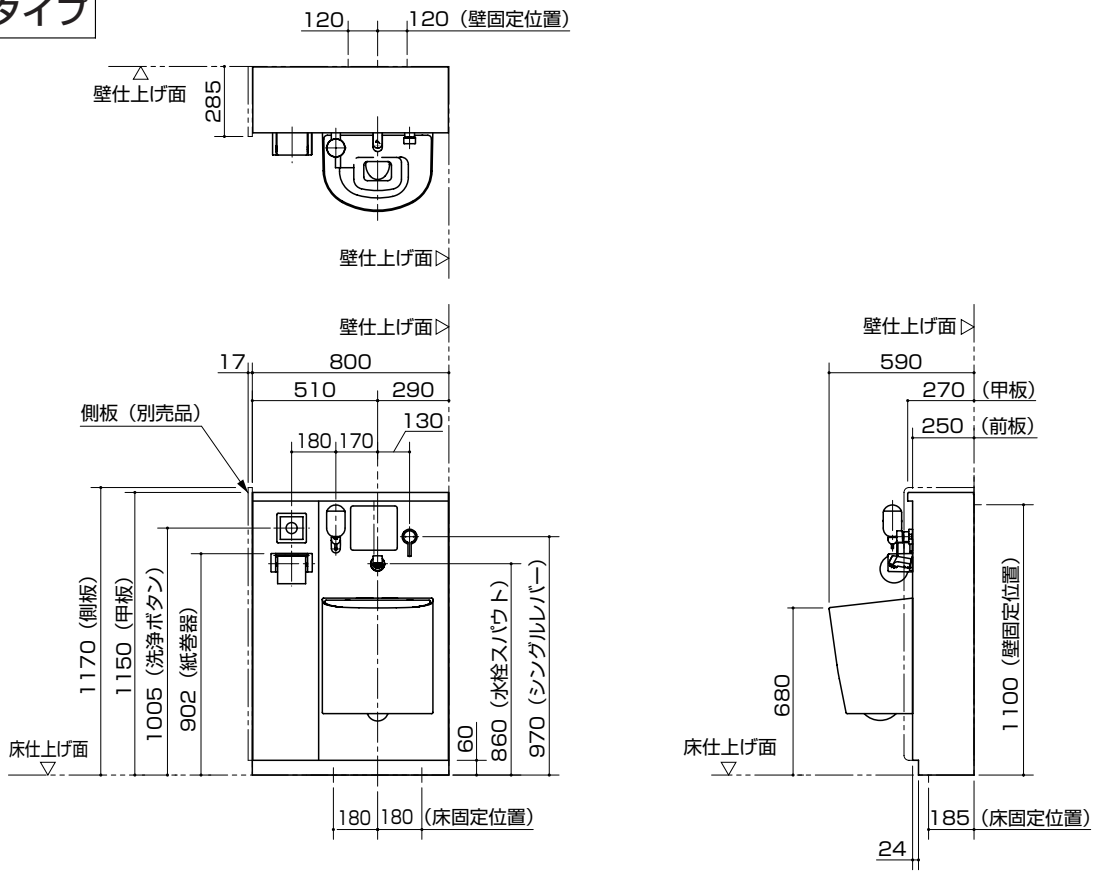
全体寸法

※前ページの製品仕様①、③～⑤の仕様違いでは、外観に違いはありません。

Lタイプ

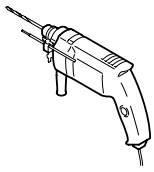
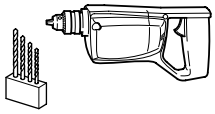
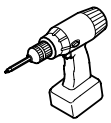
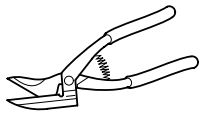
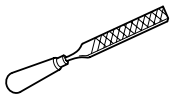
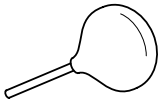
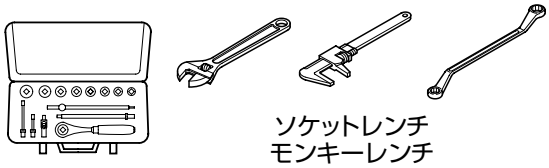
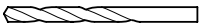
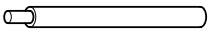
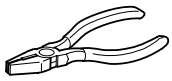
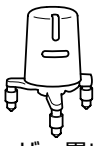
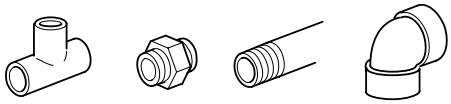


Rタイプ



必要工具・部材

一般水道工事に使う工具以外に、下記の工具・部材を用意してください。

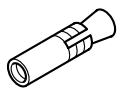
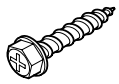
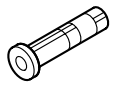
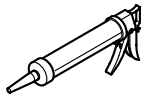
 振動ドリル	 電動ドリル 鉄工用　キリセット	 電動ドライバー ビットサイズ:#2、#3 250mm以上のロングビット	 金切りばさみ 切断能力…ステンレス板0.8mm
 金やすり	 ダストポンプ	 ソケットレンチ モンキーレンチ モーターレンチ	
 コンクリート用ドリル φ12	 アンカー打込み棒 M8アンカー用	 ペンチ	 六角棒レンチ （呼び寸法3mm）
 レーザー墨出器	 配管・継手類 ※商品図・配管図面を参照し、必要な配管・継手類を準備してください。		

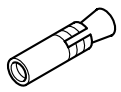
取付下地の確認、固定材の準備

取付下地を確認し、固定部材を準備します。

取付下地などに不具合があった場合は責任者の方と調整し、解消後に取り付けてください。

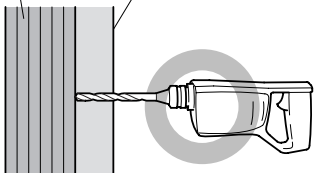
チェック 取付下地に応じた固定材を準備してください。

［壁］下　地	［壁］固定部材		
コンクリート （仕上げ厚35mm以内）		グリップアンカーM8 （下穴φ12、深さ：仕上げ厚＋40mm） （躯体に40mm打ち込むこと）	フレームに同梱
鋼製下地＋耐水合板 ※耐水合板はt12以上のJAS規格相当品を使用してください。		タッピンねじ：φ6×50	フレームに同梱
ALC （仕上げ厚35mm以内）		ALCアンカーM8 （下穴φ14.5、深さ：仕上げ厚＋65mm） （躯体に65mm打ち込むこと）	UTR805 （オプション）
コンクリートブロック		接着系アンカー	別途現場手配

［床］下　地	［床］固定部材		
コンクリート （仕上げ厚35mm以内）		グリップアンカーM8 （下穴φ12、深さ：仕上げ厚＋40mm） （躯体に40mm打ち込むこと）	フレームに同梱

※上記以外の下地の場合、別途現場で固定部材を用意してください。

ポイント 合板下地で、タイルや化粧ケイカル板など表面が硬い仕上げ材の場合は、ねじ固定時に仕上げ材が破損するのを防ぐため、仕上げ材だけに固定ねじの径よりも大きい下穴をにあけておくことをおすすめします。



配管、電源・コンセントの準備

商品図、以下に記載する事前施工情報などを参照して、配管工事、電気工事を行ってください。

給排水配管、電源・コンセントを所定の位置に取り出し、設置してください。

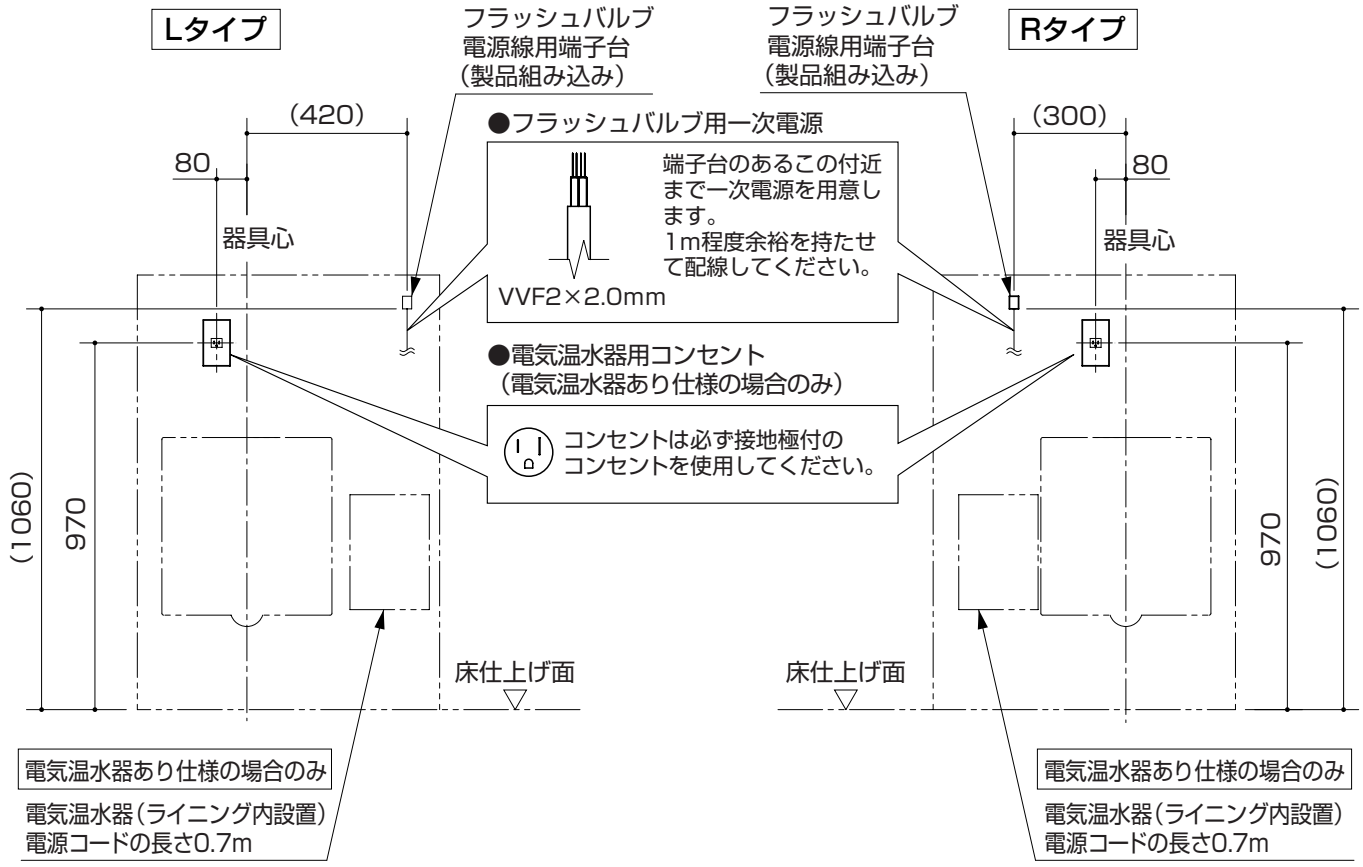
チェック　正しい位置に設置されていることを確認してください。

事前施工情報　電気工事

各器具の消費電力を確認の上、以下の電気工事を行ってください。

●フラッシュバルブ用一次電源
AC100V 50/60Hz
定格消費電力：常時2W以下、バルブ作動時4W以下

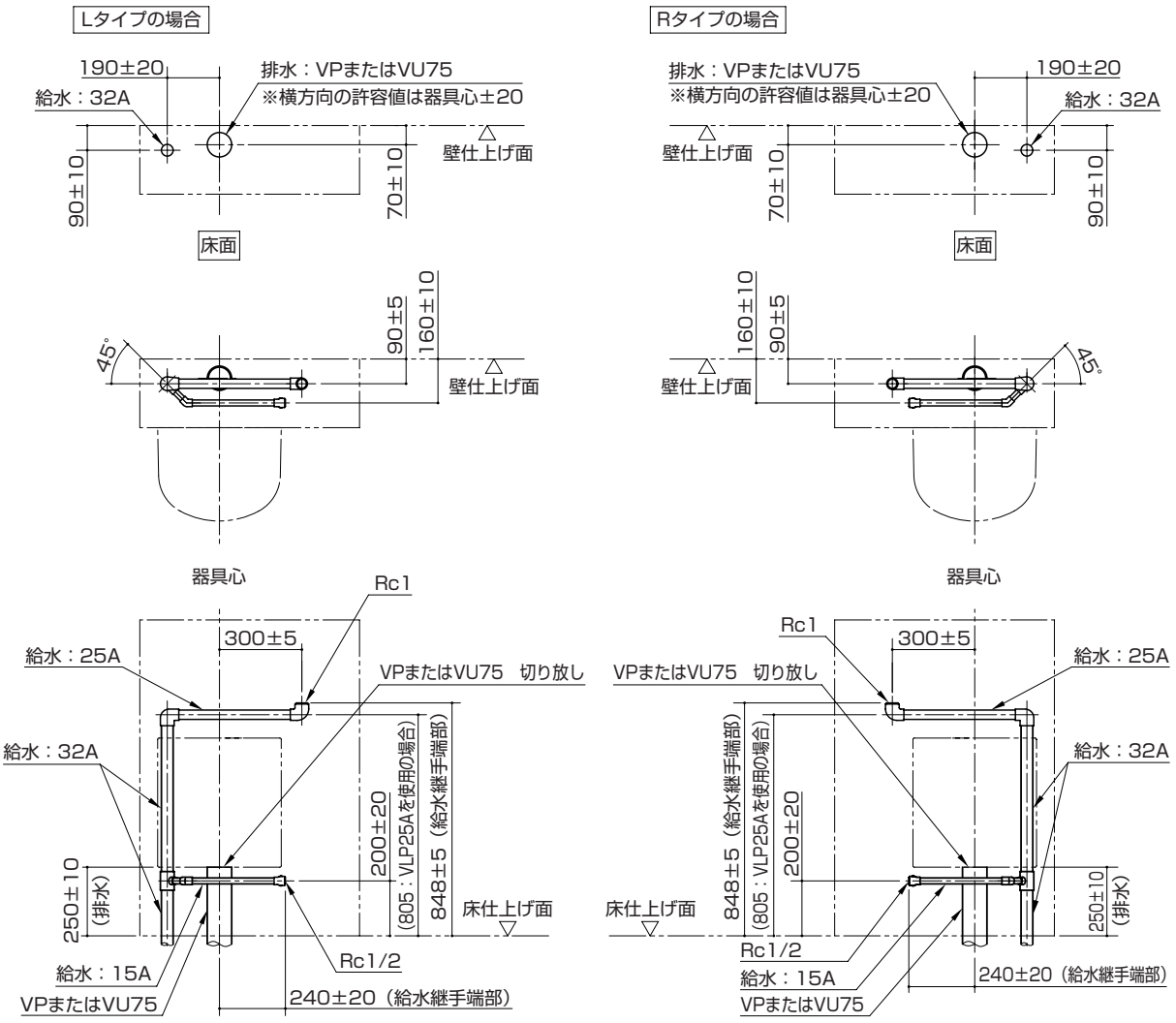
●電気温水器用コンセント（電気温水器あり仕様の場合のみ必要）
AC100V 50/60Hz 定格消費電力：600W



事前施工情報　配管工事

・商品の各仕様によって準備する配管の仕様が異なりますので、注意してください。

フラッシュバルブ水道水、電気温水器あり仕様の場合



・給水は上図に示す位置に下記をそれぞれ準備してください。
　Rc1　　（1カ所）：フラッシュバルブ接続用
　Rc1/2　（1カ所）：止水栓接続用
　※末端は必ず絶縁継手を使用してください。

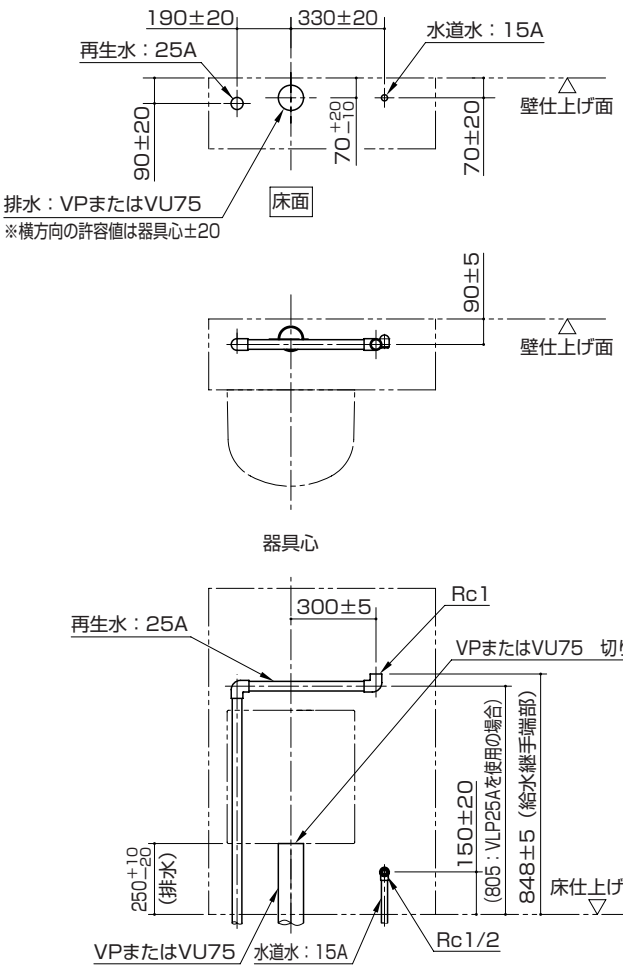
・給水は下記の圧力の範囲内で使用してください。
　最低必要水圧：0.07MPa（流動時）、最高水圧：0.75MPa（静止時）
　※快適に水栓をお使いいただくためには、0.2～0.3MPa（流動時）程度の水圧をおすすめいたします。

・排水は上図に示す位置にVP75またはVU75切り放し（1カ所）で準備してください。
　排水管を横引きで引き回す場合は、順勾配1/100を確実に確保してください。

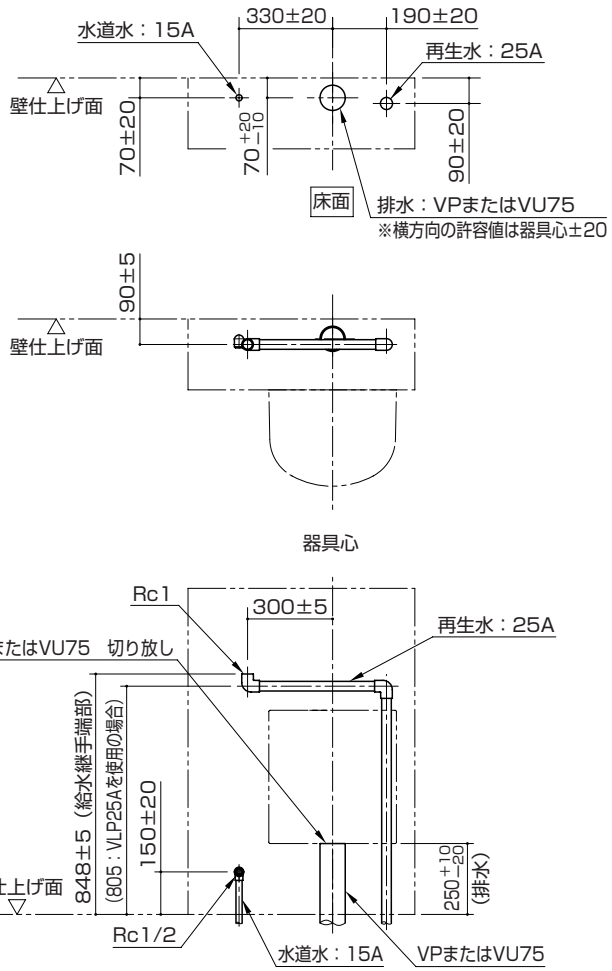
・配管は躯体壁などに確実に固定してください。

フラッシュバルブ再生水、電気温水器あり仕様の場合

Lタイプの場合



Rタイプの場合



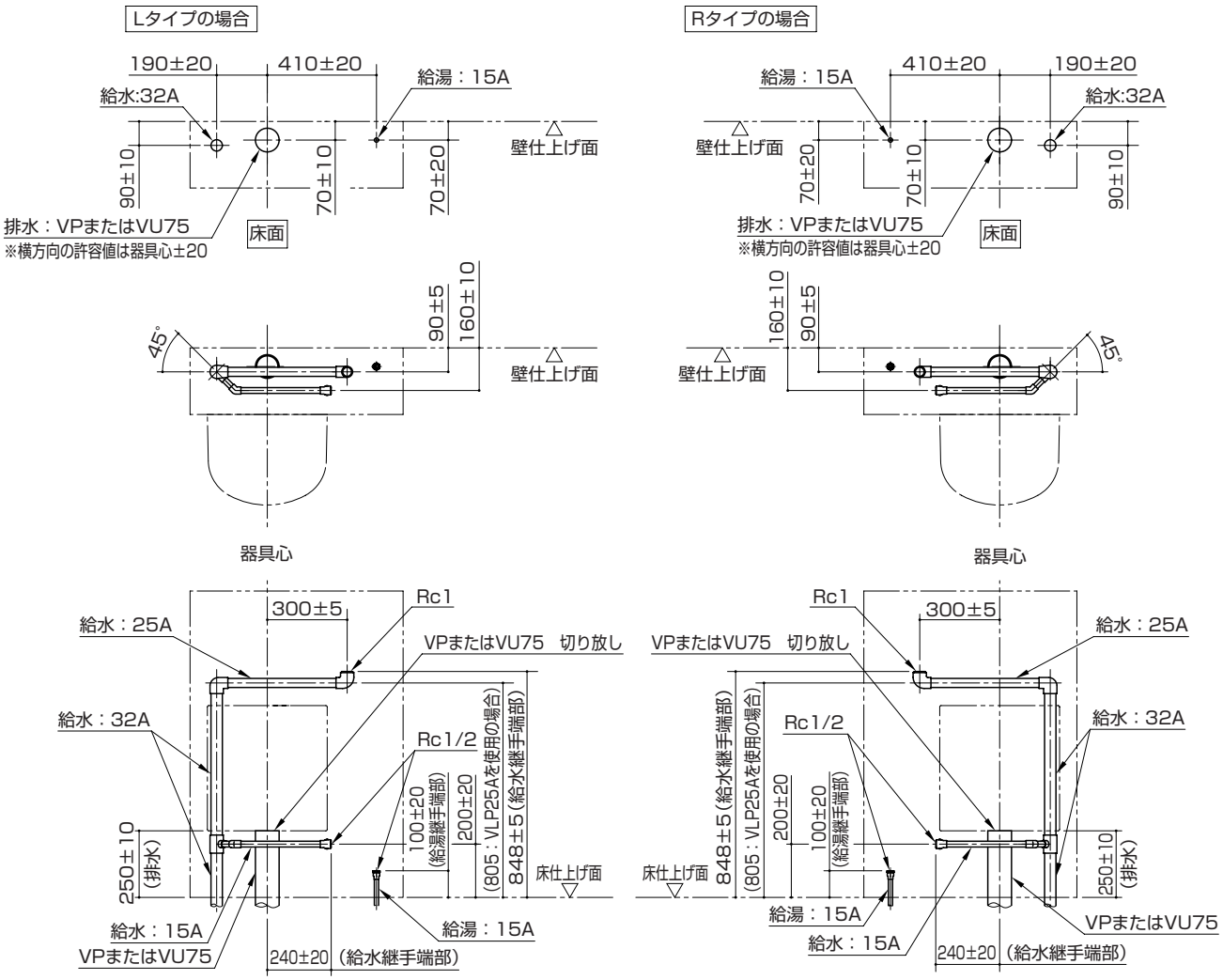
・給水は上図に示す位置に下記をそれぞれ準備してください。
　＜再生水＞Rc1　　（1カ所）：フラッシュバルブ接続用
　＜水道水＞Rc1/2　（1カ所）：止水栓接続用
　※末端は必ず絶縁継手を使用してください。

・給水は下記の圧力の範囲内で使用してください。
　最低必要水圧：0.07MPa（流動時）、最高水圧：0.75MPa（静止時）
　※快適に水栓をお使いいただくためには、それぞれ0.2～0.3MPa（流動時）程度の水圧をおすすめいたします。

・排水は上図に示す位置にVP75またはVU75切り放し（1カ所）で準備してください。
　排水管を横引きで引き回す場合は、順勾配1/100を確実に確保してください。

・配管は躯体壁などに確実に固定してください。

フラッシュバルブ水道水、電気温水器なし仕様の場合



・給水は上図に示す位置に下記をそれぞれ準備してください。
　Rc1　　（1カ所）：フラッシュバルブ接続用
　Rc1/2　（1カ所）：止水栓接続用
　※末端は必ず絶縁継手を使用してください。

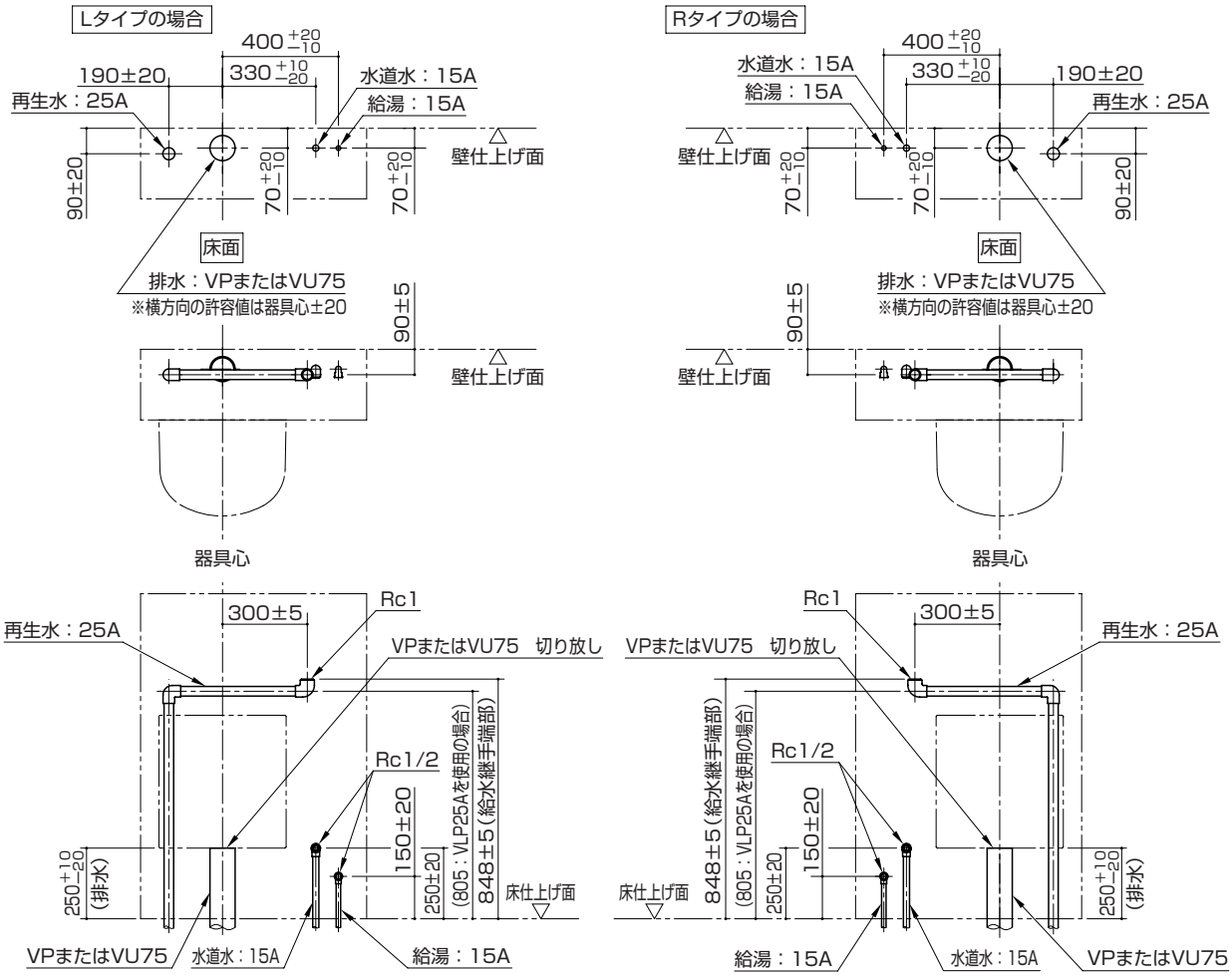
・給湯は上図に示す位置にRc1/2（1カ所：止水栓接続用）で準備してください。
　※末端は必ず絶縁継手を使用してください。
　給湯温度：60～85℃の範囲で設定してください。
　※やけど防止のため、60℃程度の設定をおすすめします。

・給水、給湯は下記の圧力の範囲内で使用してください。
　最低必要水圧：0.07MPa（流動時）、最高水圧：0.75MPa（静止時）
　※快適に水栓をお使いいただくためには、それぞれ0.2～0.3MPa（流動時）程度の水圧をおすすめいたします。

・排水は上図に示す位置にVP75またはVU75切り放し（1カ所）で準備してください。
　排水管を横引きで引き回す場合は、順勾配1/100を確実に確保してください。

・配管は躯体壁などに確実に固定してください。

フラッシュバルブ再生水、電気温水器なし仕様の場合



・給水は上図に示す位置に下記をそれぞれ準備してください。
　＜再生水＞Rc1　　（1カ所）：フラッシュバルブ接続用
　＜水道水＞Rc1/2　（1カ所）：止水栓接続用
　※末端は必ず絶縁継手を使用してください。

・給湯は上図に示す位置にRc1/2（1カ所：止水栓接続用）で準備してください。
　※末端は必ず絶縁継手を使用してください。
　給湯温度：60～85℃の範囲で設定してください。
　※やけど防止のため、60℃程度の設定をおすすめします。

・給水、給湯は下記の圧力の範囲内で使用してください。
　給水最低必要水圧：0.07MPa（流動時）、最高水圧：0.75MPa（静止時）
　※快適に水栓をお使いいただくためには、それぞれ0.2～0.3MPa（流動時）程度の水圧をおすすめいたします。

・排水は上図に示す位置にVP75またはVU75切り放し（1カ所）で準備してください。
　排水管を横引きで引き回す場合は、順勾配1/100を確実に確保してください。

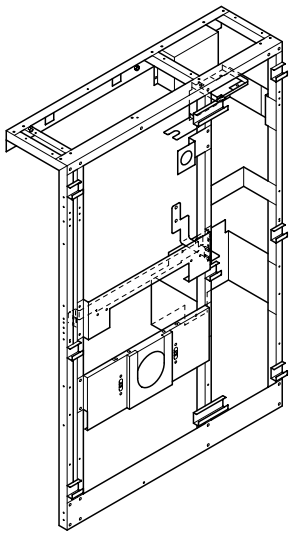
・配管は躯体壁などに確実に固定してください。

部品の確認

フレーム部

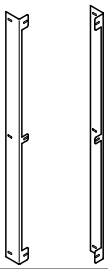
STEP 4

フレーム本体



STEP 5

フィラー受け材

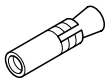
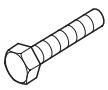
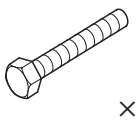
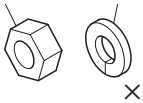
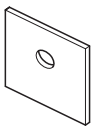
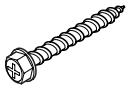
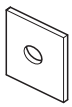


タッピンねじ φ4×8

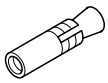
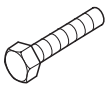
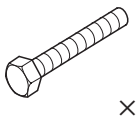
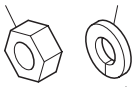
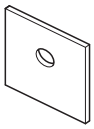
×6

フレーム部品箱

STEP 3, 4

フレーム壁固定部材セット			
グリップアンカー M8	六角ボルト M8×50	六角ボルト M8×80	ナットM8 ばね座金付き
 ×2	 ×2	 ×2	ナット ばね座金  ×2
ワッシャー	コーチねじ φ6×50	大形角M6	
 ×2	 ×2	 ×2	

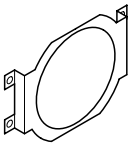
STEP 2, 4

フレーム床固定部材セット		
グリップアンカー M8	六角ボルト M8×50	六角ボルト M8×80
 ×2	 ×2	 ×2
ナットM8 ばね座金付き	ワッシャー	
ナット ばね座金  ×2	 ×2	

ライナー
t=0.5
t=1.0
t=3.0
それぞれ×10

STEP 6

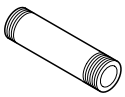
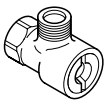
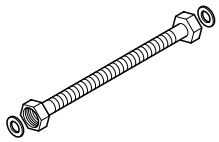
ソケット押え板



タッピンねじ φ4×8

×4

STEP 9 または 10

ニップル	止水栓	開閉工具	フレキ管
			 〈数量〉 電気温水器あり仕様の場合 L=600mm 電気温水器なし仕様の場合 L=400mm, L=600mm 各1本

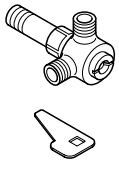
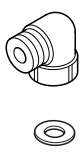
STEP 9

※電気温水器あり仕様の場合のみ

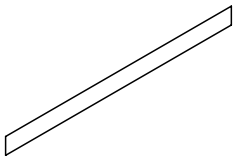
タッピンねじ φ4×8
電気温水器取付用 ×3

STEP 10

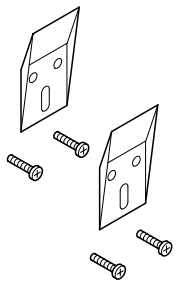
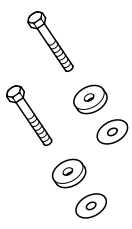
※電気温水器なし仕様の場合のみ

止水栓	L継手
	

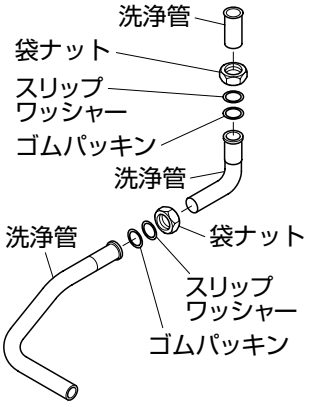
STEP 11

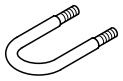
両面テープ
幅木


STEP 14

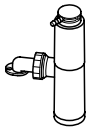
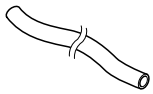
バックハンガー	スパッド	便器取付ボルト
		

STEP 15

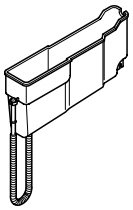
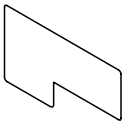
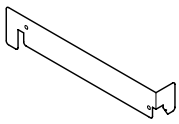
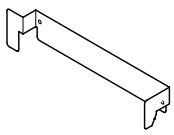
接続継手	洗浄管
電気温水器あり仕様の場合 電気温水器なし仕様の場合 	

洗浄管取付用		
Uボルト	絶縁シート	座付きナットM6
 ×2	×2	×4

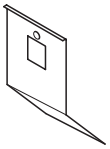
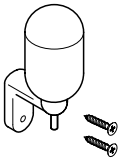
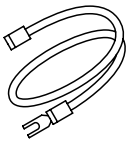
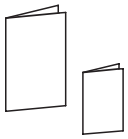
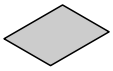
STEP 15 ※電気温水器あり仕様の場合のみ

排水ホッパー		
本体部	排水ホッパーホース	ホースクランプ
	 L=800mm×1本	×2

STEP 17

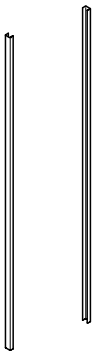
水受けトレイ	ホースガイド	水受けトレイ取付材		タッピンねじ φ4×8
		Lタイプの場合	Rタイプの場合	水受けトレイ取付材にテープ止め
				×2

STEP 18　STEP 19　STEP 20　STEP 23

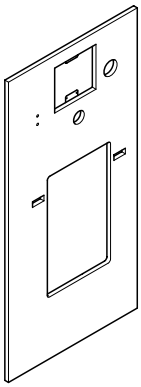
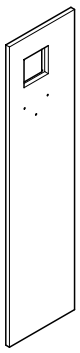
水切板	水石けん入れ	連結線	鏡	玉鎖	タッピンねじ φ4×8	施工説明書・取扱説明書	使いかたラベル
					×2		 ※全ての作業終了後に張り付けを行います。大切に保管してください。

前板部

STEP 12

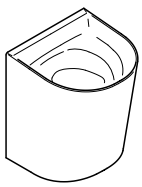
フィラー


STEP 13

器具裏前板	点検口
	

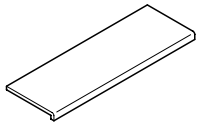
汚物流し

STEP 14

汚物流し


甲板部

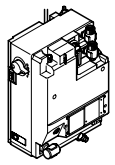
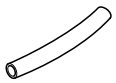
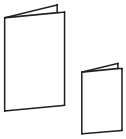
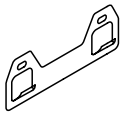
STEP 24

甲板本体	マジックテープ
	透明と黒それぞれ×10（予備：2）

電気温水器

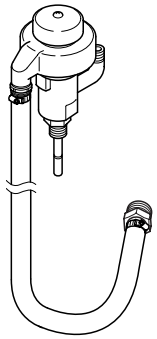
※電気温水器あり仕様の場合のみ

STEP 9

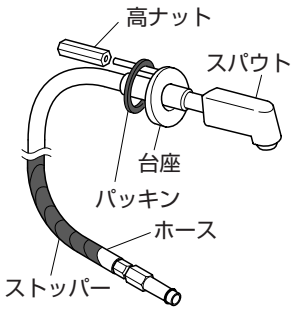
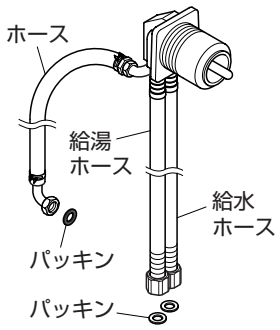
電気温水器本体	水抜きチューブ	施工説明書 取扱説明書	皿タッピンねじ φ4×10	固定金具	底部固定金具
					

水栓

STEP 7

バキューム ブレーカー


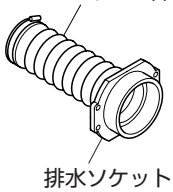
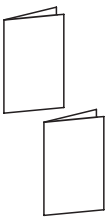
STEP 18

水栓スパウト	シングルレバー 本体部	取付ナット	パッキン(黒)	発泡パッキン(白)
				
		ハンドル	止めねじ	化粧キャップ

器具箱

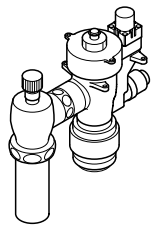
単独排水管継手

STEP 6 / STEP 14

排水継手	排水パッキン	施工説明書 取扱説明書
		

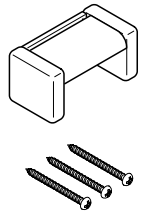
フラッシュバルブ

STEP 8

フラッシュバルブ	小ねじ M4×12
	×4

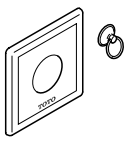
紙巻器

STEP 21

紙巻器


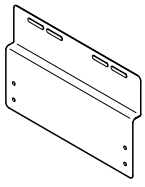
洗浄ボタン

STEP 22

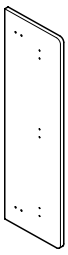
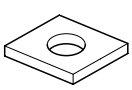
洗浄ボタン
 ※取付部材 一式含む

側板：UTR138(別売品)

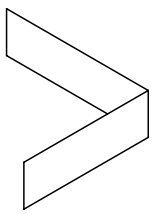
STEP 4

側板下部固定材	皿タッピンねじ φ4×8
	×2

STEP 5

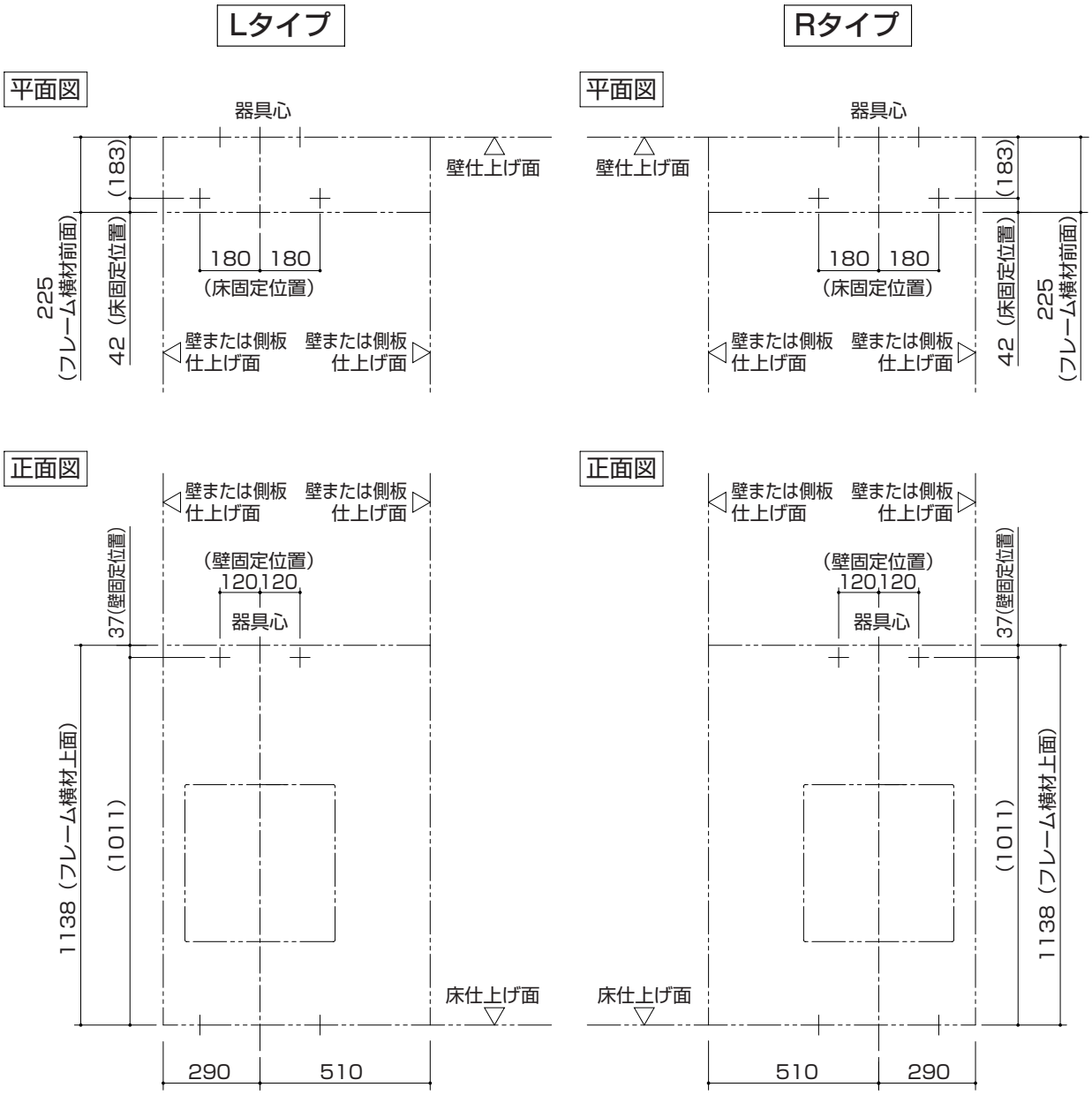
側板	側板上部固定材	角座金M6	タッピンねじ φ4×20
			 タッピンねじ φ4×12 ×9

STEP 11

L形幅木


STEP1 墨出し

下記を参考に、器具心・フレーム位置・床／壁固定位置を墨出しします。



STEP2 床固定用アンカーの打ち込み

墨出し位置に床固定用アンカーを打ち込みます。

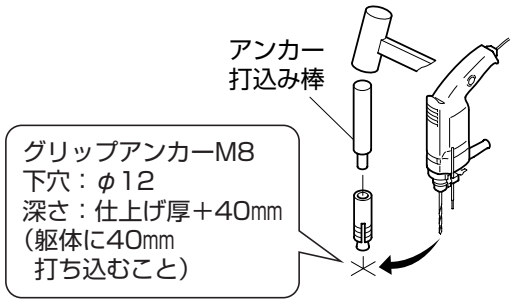
⚠ 警告

必ず実行

指定径のドリルで所定の深さの下穴をあけ、ダストポンプを使用して、必ず穴の中の切粉を除去する

所定強度を発揮できず、フレームが倒れてけがをする原因になります。

同梱のアンカー以外を使用する場合は、その注記にしたがい施工してください。



STEP3 フレーム壁固定の準備

下地によって、使用する固定部材が異なりますので、各部材の固定ねじに応じた固定部材を使用してください。各固定部材については、8ページの「**取付下地の確認、固定部材の準備**」を参照してください。

アンカー固定の場合 フレーム設置の前に墨出し位置にアンカーを施工します。

⚠ 警告

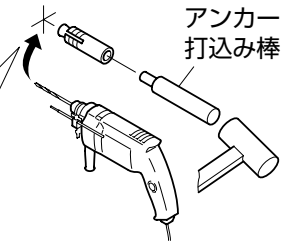
必ず実行

指定径のドリルで所定の深さの下穴をあけ、ダストポンプを使用して、必ず穴の中の切粉を除去する

所定強度を発揮できず、フレームが倒れてけがをする原因になります。

壁下地		コンクリート	ALC
固定部材		グリップアンカーM8	ALCアンカーM8
下地	径	φ12	φ14.5
	深さ	仕上げ厚+40	仕上げ厚+65

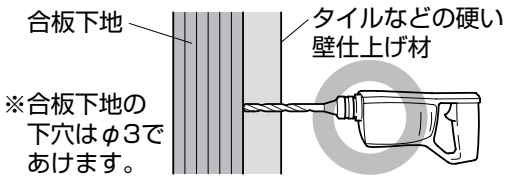
※アンカーは躯体に確実に打ち込むこと



タッピンねじ固定の場合 フレーム設置の前に必要に応じて下記準備を行います。

ポイント

合板下地で、タイルや化粧ケイカル板など表面が硬い仕上げ材の場合は、ねじ固定時に仕上げ材が破損するのを防ぐため、仕上げ材だけに固定ねじの径よりも大きい下穴をあけておくことをおすすめします。



STEP4 フレームの設置

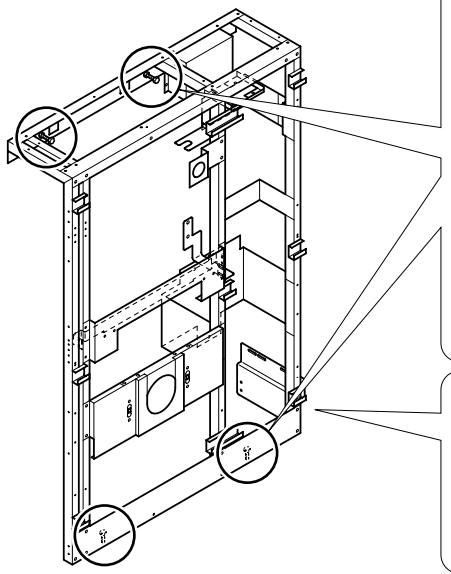
1 調整ボルトの取り付け

床・壁の調整用に六角ボルトM8×50をフレームに取り付けます。

側板を設置する場合 側板に同梱されている側板下部固定材をフレームに取り付けます。

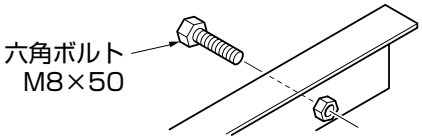
チェック

フレーム設置の前に必ず取り付けてください。フレーム設置後、壁とフレームとの間にスペースがない場合、側板下部固定材を取り付けられなくなります。



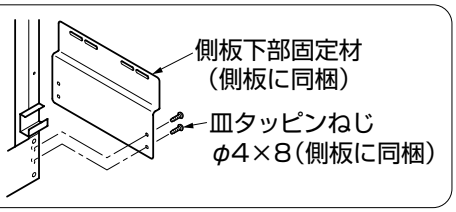
調整ボルトの取り付け

※壁下地が石膏ボードなどやわらかい場合は、ボルトをフレームの裏から取り付け、壁下地にボルト頭が当たるようにしてください。



【側板を設置する場合】

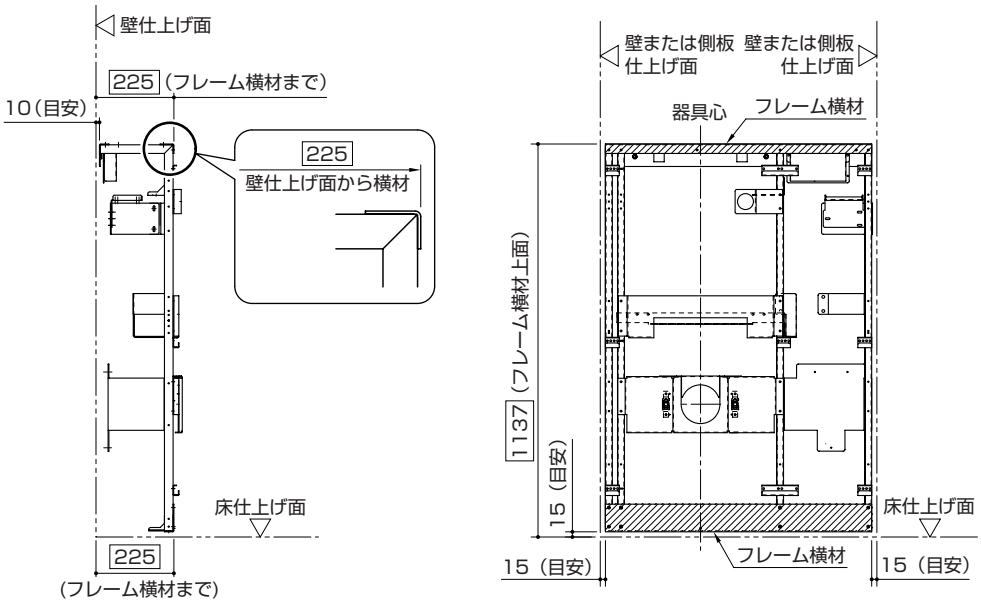
側板下部固定材を固定材の皿穴とフレームの下穴を合わせて、皿タッピンねじφ4×8で固定します。



2 フレームの仮設置

①墨出しした位置に合わせてフレームを仮り置きします。
②調整ボルトで器具心、フレームの高さ、前出、水平、垂直などの位置調整をします。
（目安　床仕上げ面とのすき間：15mm、壁仕上げ面とのすき間：10mm）

チェック
フレームの水平・垂直がそろっていないと、前板・甲板などの仕上げ材取付時に、すき間が不ぞろいになるなどの原因になります。
必ず水準器や下げ振りなどを使用し、建築壁に頼らず正しく位置出ししてください。



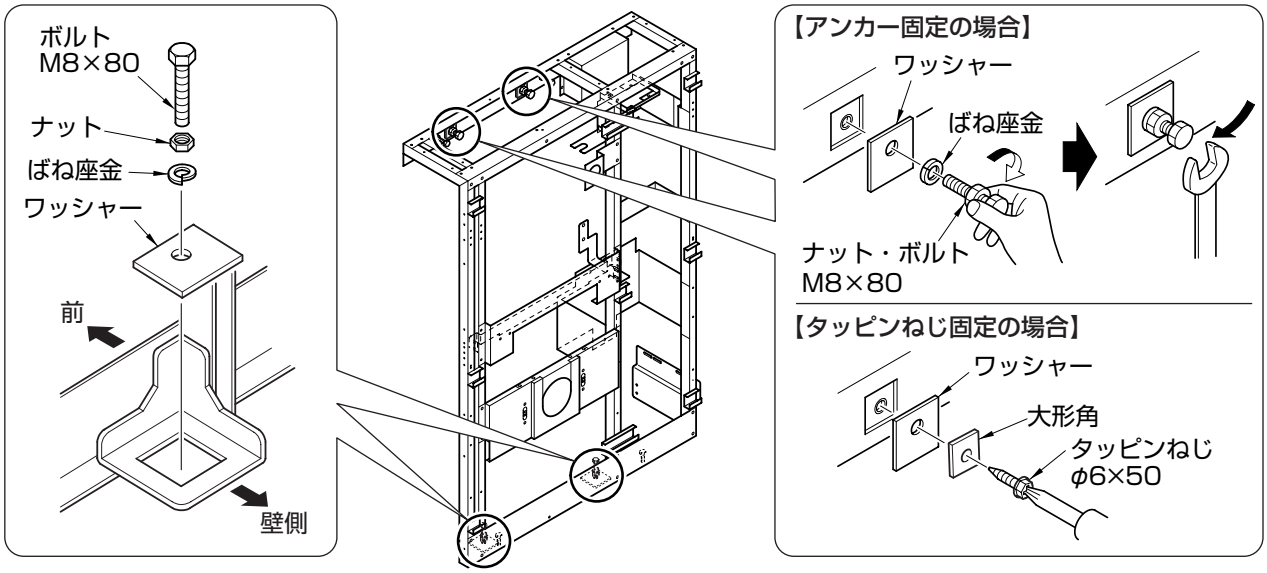
3 フレームの本固定

床・壁を2カ所ずつ固定します。

⚠ 警告

必ず実行
フレームを確実に固定する
フレームが倒れて、けがをする原因になります。

チェック
フレームの設置位置が正確か確認してください。
位置がずれている場合は、固定ボルト・固定ねじをゆるめて正しい位置に再調整してください。



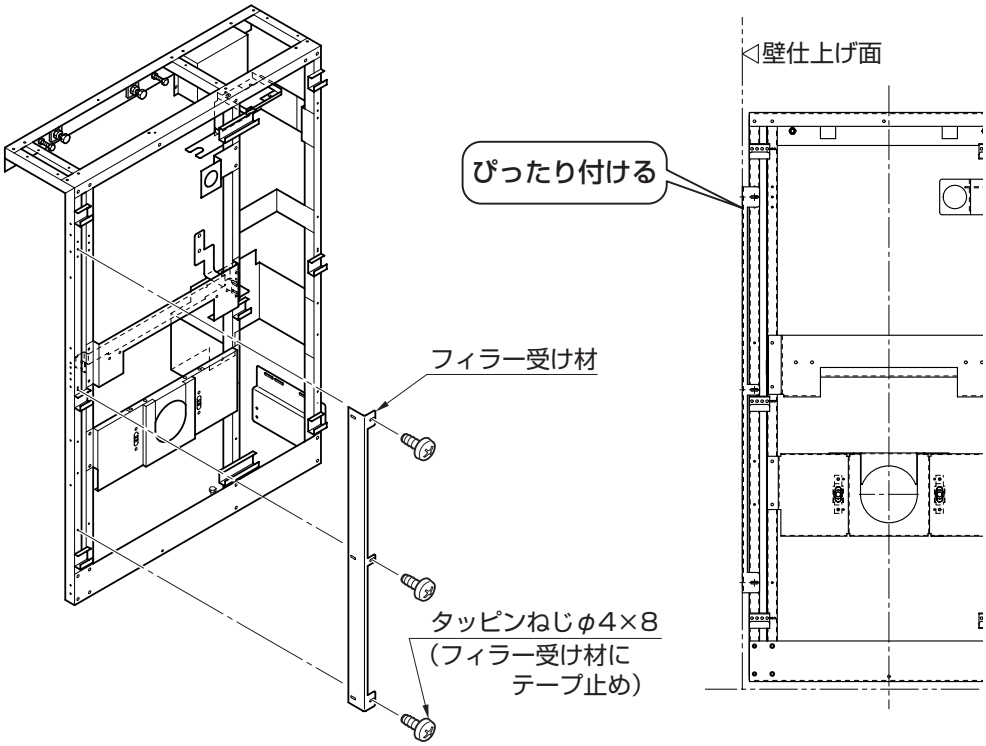
STEP5 フィラー受け材・側板の取り付け

※本施工説明書では、向かって左側が建築壁と隣り合い、向かって右側に側板を取り付ける場合を記載します。建築壁、側板の設置が本記載と逆側になる場合は、それぞれ左右反転になります。

建築壁と取り合う側（側板の設置がない側）

1 フィラー受け材の取り付け

建築壁と取り合う側に、フィラー受け材をタッピンねじφ4×8で取り付けます。
この時フィラー受け材の端部を、建築壁にぴったりと付けて取り付けます。



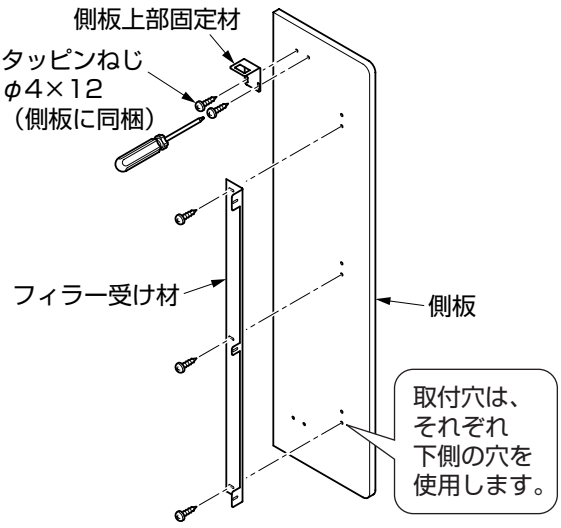
側板を設置する側

1 フィラー受け材、固定材の取り付け

側板の下穴に合わせて、フィラー受け材と側板上部固定材をタッピンねじφ4×12で仮固定します。
固定材の長穴の中心を目安に、固定材が手で動かせる程度に仮固定してください。

・側板上部固定材：2カ所
・フィラー受け材：3カ所

ポイント 締め込み過ぎによる空転を防ぐため、電動ドライバーは使用せず、ドライバーによる手締めで作業してください。

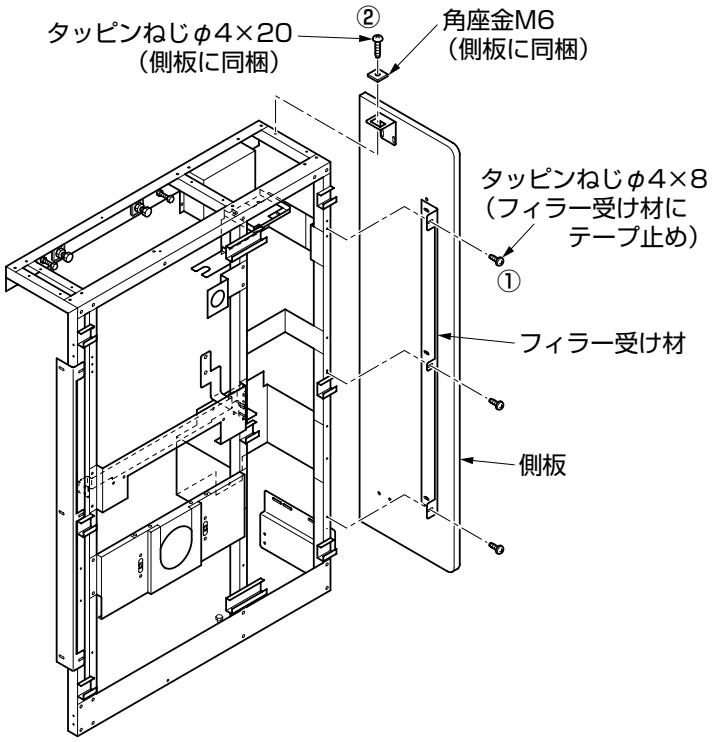


2 側板の仮固定

フレームに側板を取り付けます。

①フィラー受け材の仮固定
フィラー受け材の穴とフレームの下穴を合わせて、タッピンねじφ4×8で仮固定します。(3カ所)

②側板上部固定材の仮固定
固定材の長穴をフレームの下穴を合わせて、角座金M6とタッピンねじφ4×20で仮固定します。



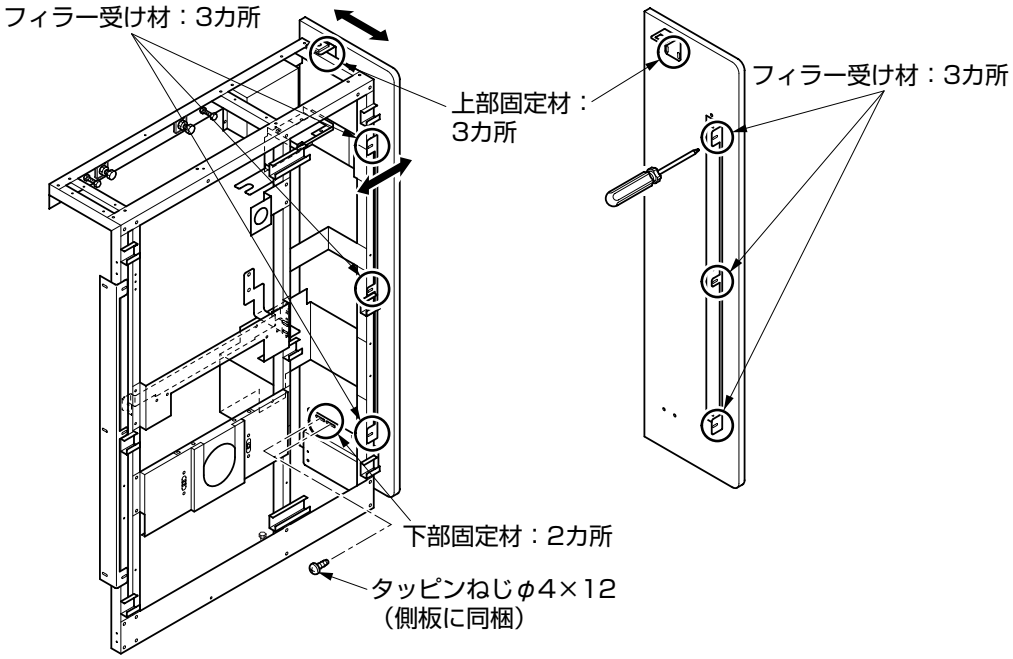
3 側板の本固定

調整後、側板を本固定します。

①側板の倒れ、背面の壁とのすき間がないように位置を調整します。

②調整後に仮固定しているタッピンねじを本固定してください。
側板下部固定材をタッピンねじφ4×12で側板に固定してください。

> ポイント 締め込み過ぎによる空転を防ぐため、電動ドライバーは使用せず、ドライバーによる手締めで作業してください。

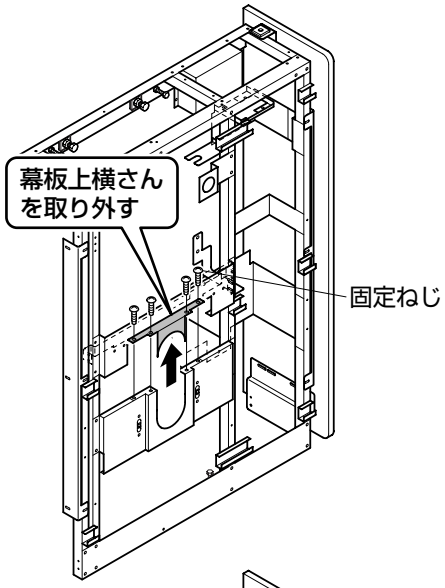


STEP6 単独排水管継手の取り付け

本施工説明書に記載していない事項は、単独排水管継手の施工説明書を参考にしてください。

①幕板上横さんを取り外します。

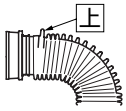
取り外した幕板上横さん・固定ねじは後で元の状態に取り付けますので、捨てずに保管してください。



②単独排水管継手を前面から幕板に挿入し、ソケット押え板を排水ソケット前面からかぶせて幕板にタッピンねじφ4×8で固定します。

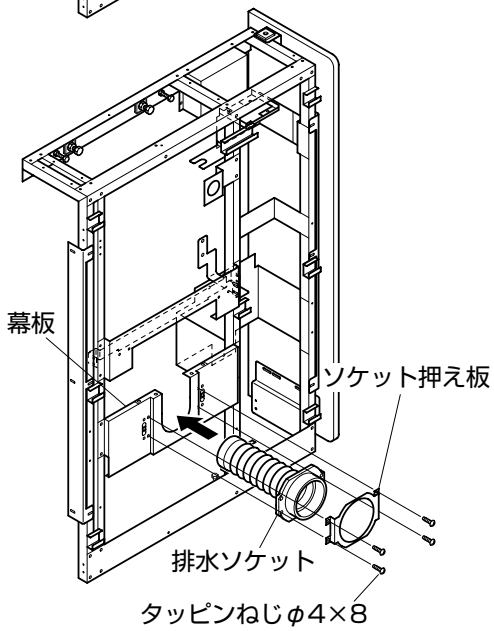
チェック

●単独排水管継手の向きを間違わないように注意してください。



●排水ソケットが幕板とソケット押え板の中で上下左右に動くことを確認してください。

パッキンは陶器固定の際に使用しますので、捨てずに保管してください。



③取り外した幕板上横さんを元の位置にねじ固定します。

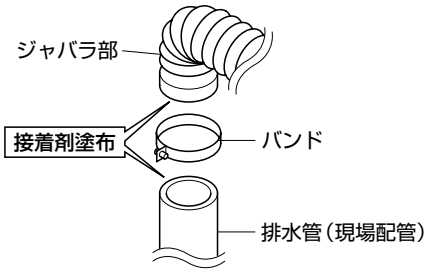
④排水管にジャバラ部を接続します。
接続は、硬質塩化ビニル管用接着剤で接着後、バンドで固定してください。

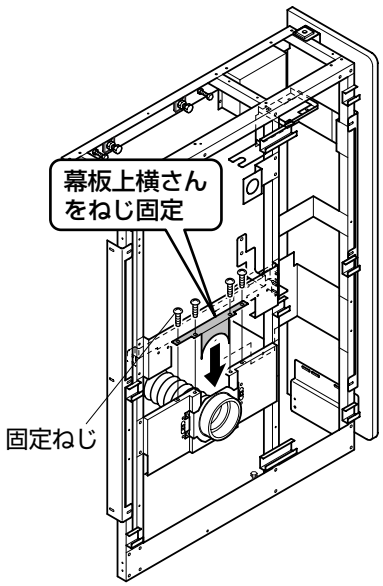
⚠ 注意

必ず実行

ジャバラ部は必ず排水管に接着する
水漏れにより財産に損害を与える原因になります。

ジャバラ部を無理に曲げたり逆勾配にならないよう接続する
洗浄不良を起こしたり、水漏れにより財産に損害を与える原因になります。





STEP7 バキュームブレーカーの取り付け

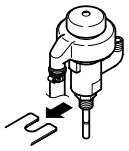
①あらかじめ、バキュームブレーカーの固定ナットをゆるめておき、バキュームブレーカーをフレームの支持材のスリットに挿入します。

②固定ナットを締め付けて固定します。

ホース・各継手の接続は後の工程で行います。

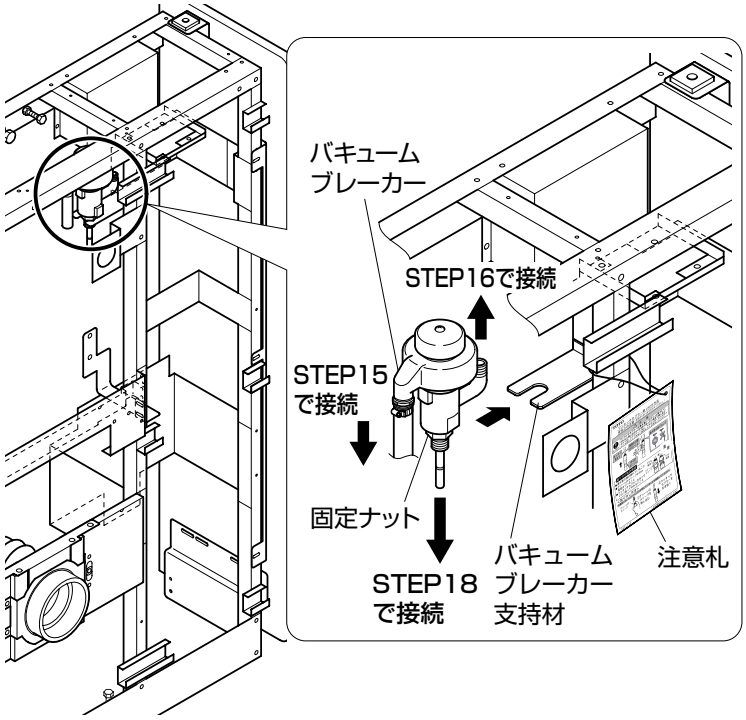
Rタイプの場合

バキュームブレーカーの向きは
Lタイプと同じです。



チェック

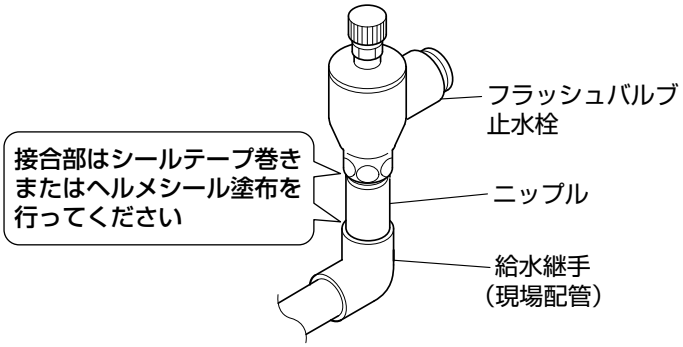
ワンタッチカプラー取り付け方法記載注意札は外さないようにしてください。施工中に外した場合は、作業後必ずバキュームブレーカー支持材に取り付けてください。点検作業の際に必要になります。



STEP8 フラッシュバルブの取り付け

1 フラッシュバルブ止水栓の取り付け

フラッシュバルブ止水栓と給水管を同梱のニップルを介して接続します。
その際、シールテープまたはヘルメシールの塗布を行ってください。

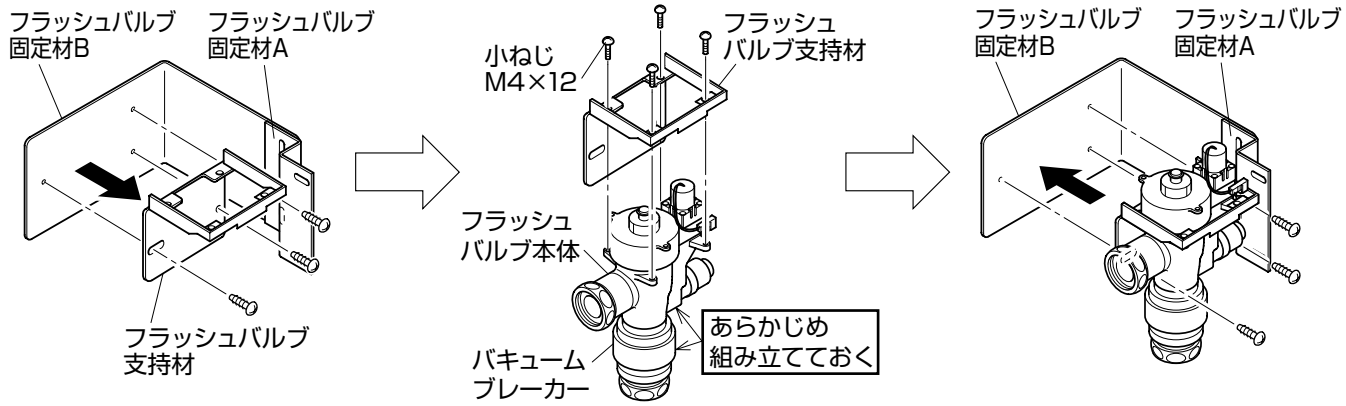


2 フラッシュバルブ本体の取り付け

①フラッシュバルブ支持材をいったん取り外します。

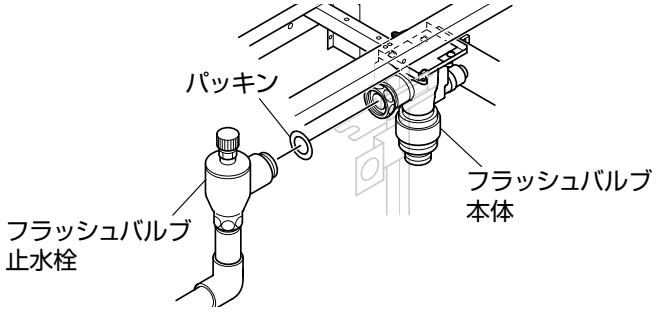
②あらかじめフラッシュバルブ本体とバキュームブレーカーを組み立て、フラッシュバルブ支持材に取り付けます。

③再びフラッシュバルブ固定材に取り付けます。



3 止水栓と本体の接続

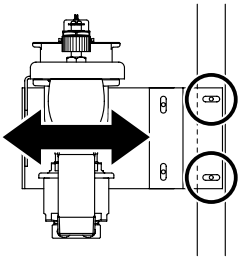
フラッシュバルブ止水栓と本体を接続し、袋ナットで固定します。
この時、止水栓と本体の位置が合わない場合は下記の要領で、フラッシュバルブ本体の位置を調整してください。



フラッシュバルブ止水栓と本体の位置が合わないとき

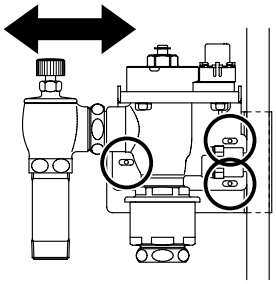
・支持材、固定材を止めているねじをゆるめ、位置を調整します。
・調整後の位置でゆるめたねじを締め付けて支持材、固定材を固定します。

①奥行方向



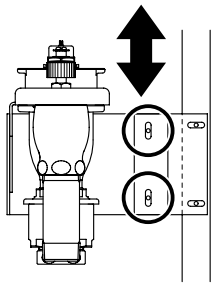
※ねじをゆるめて長穴の調整しろを使い、前後調整しながら再固定します。

②左右方向



※ねじをゆるめて長穴の調整しろを使い、左右調整しながら再固定します。

③上下方向



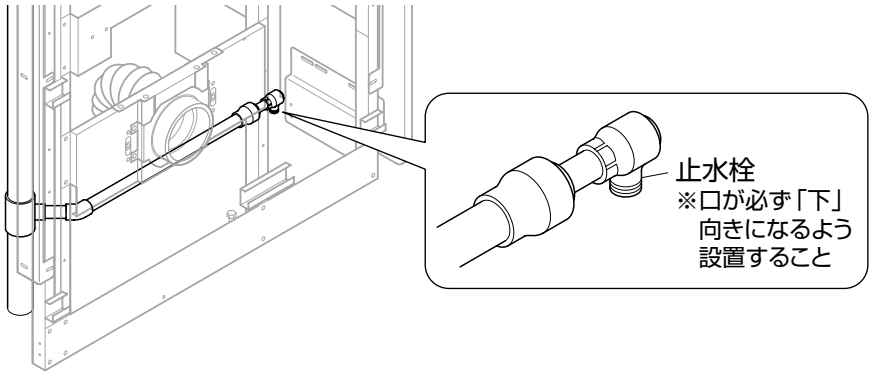
※ねじをゆるめて長穴の調整しろを使い、上下調整しながら再固定します。

STEP9 電気温水器の取り付け

電気温水器なし仕様の場合は本作業は必要ありません。**STEP10**にお進みください。

1 止水栓の取り付け

止水栓を給水管に接続します。



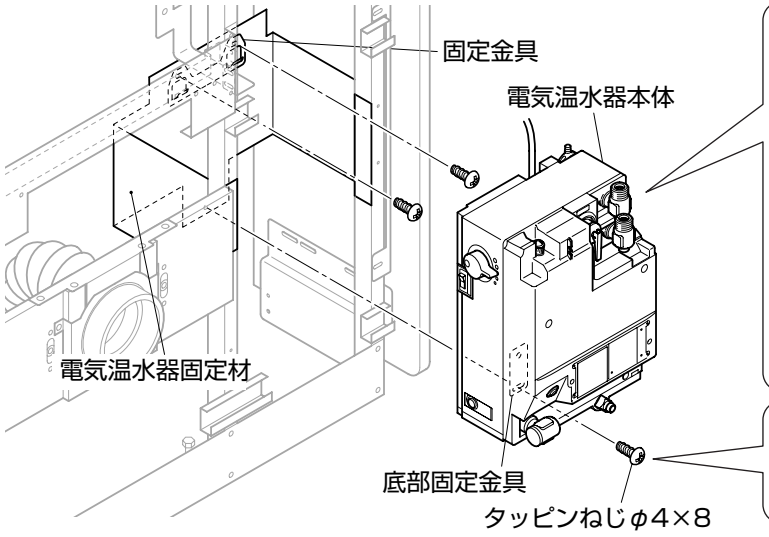
チェック
製品に付属の止水栓の開閉工具は日頃のお手入れやメンテナンス時に使用しますので、取扱説明書などと一緒に必ずお客様にお渡しください。

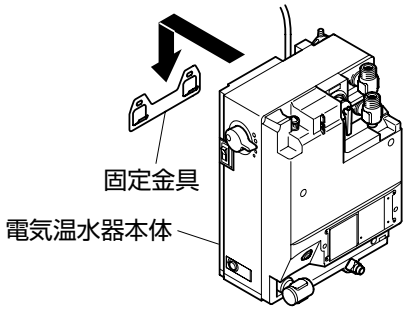
開閉工具

2 電気温水器の設置

フレームの電気温水器固定材に電気温水器を取り付けます。

詳細は電気温水器に同梱の施工説明書「取付手順」を参照して取り付けてください。





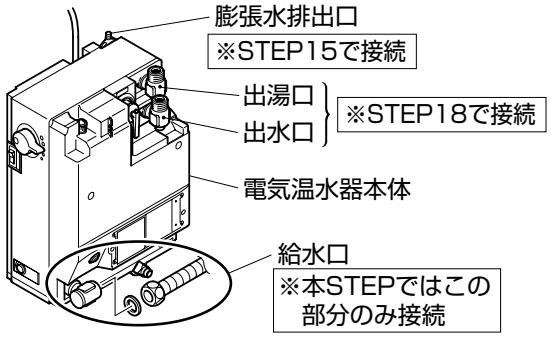
電気温水器本体の取り付けは固定金具に引っかけて取り付けてください。

チェック 本商品では取付ねじはフレーム部品箱に同梱のタッピンねじφ4×8を使用します。（3カ所）

3 給水管の接続

詳細は電気温水器に同梱の施工説明書「取付手順」を参照して取り付けてください。

チェック 本商品のこの工程では、給水口のみ接続いたします。
その他の接続は後の工程で行いますので注意してください。



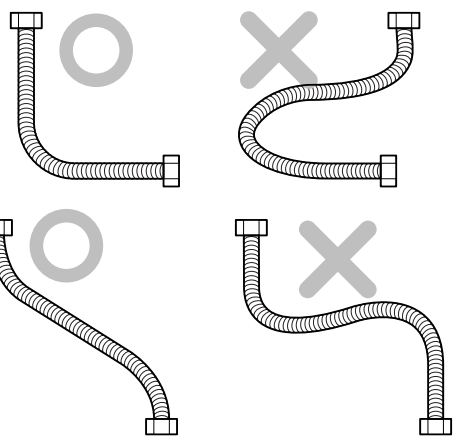
①給水口に接続する前に止水栓フィルターの網目に詰まったゴミなどを取り除きます。

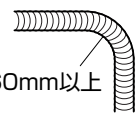
②止水栓と電気温水器をフレキ管（L＝600mm）で接続します。

⚠注意 必ず実行 **フレキ管の取り付けは必ず下記の項目にそれぞれ注意して行う**

水漏れにより、財産に損害を与える原因になります。

- 袋ナットの締め付けに、パイプレンチは使用しないでください。
- パイプは、取り付けの前にあらかじめ所定の形に曲げてください。このとき、パイプは小さい角度で曲げないでください。また、袋ナット付け根部分を曲げないでください。
- 曲げ作業をくり返すと破損するおそれがありますので、1～2回程度の曲げで所定の形になるようにしてください。
- 必ず同梱のパッキンを使用してください。
- 袋ナットは十分締め付け、取り付け後、水漏れがないことを確認してください。
- パイプは極端におらないでください。R60以上は確保してください。



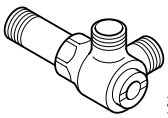
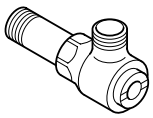


STEP10 サーモバルブの接続

電気温水器あり仕様の場合は本作業は必要ありません。**STEP11**にお進みください。

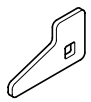
1 止水栓の取り付け

止水栓を給水管、給湯管にそれぞれ接続します。
※それぞれ取り付ける止水栓が異なりますので注意してください。

給水管用	給湯管用
 ※口：2つ	 ※口：1つ

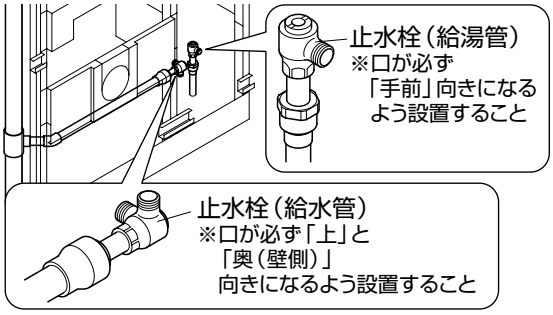
また、LRタイプ・配管の仕様によって止水栓の向きが変わってきます。
下記を参照して間違いがないように取り付けてください。

チェック 製品に付属の止水栓の開閉工具は日頃のお手入れやメンテナンス時に使用しますので、取扱説明書などと一緒に必ずお客様に渡してください。

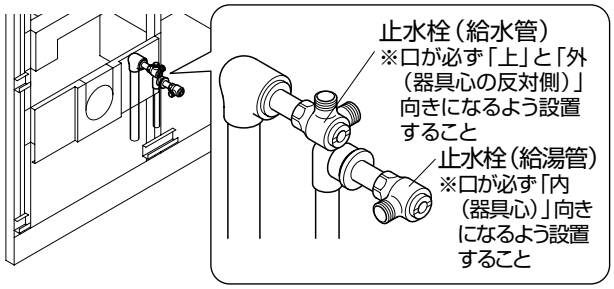

開閉工具

Lタイプの場合

フラッシュバルブ水道水仕様の場合

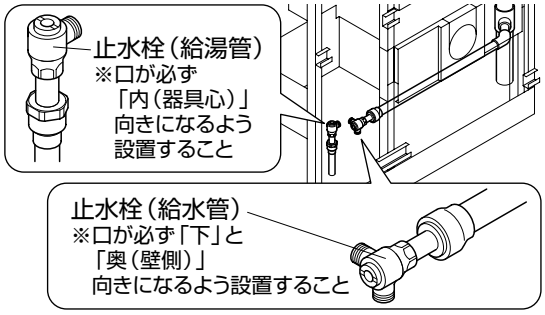


フラッシュバルブ再生水仕様の場合

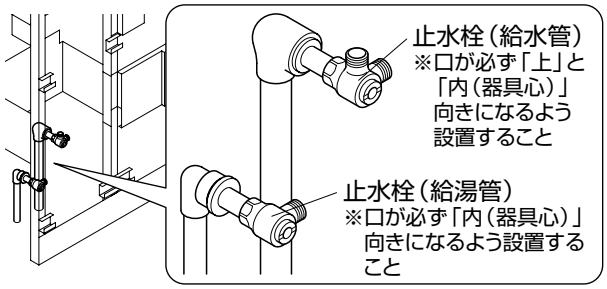


Rタイプの場合

フラッシュバルブ水道水仕様の場合



フラッシュバルブ再生水仕様の場合

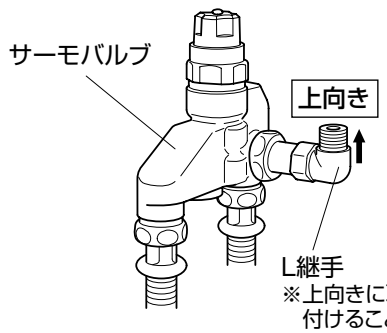


2 L継手の取り付け

L継手を取り付けます。
※仕様によって取り付ける部位が違いますので注意してください。

Lタイプの場合

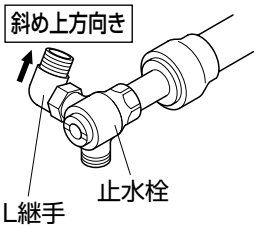
サーモバルブの出湯口にL継手を取り付けます。



Rタイプの場合

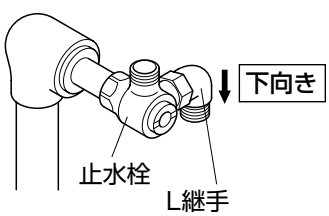
給水管用止水栓にL継手を取り付けます。

フラッシュバルブ水道水仕様の場合



※「奥（壁側）」向きの口に取り付けること
※斜め上方に（器具心方向）に向けて取り付けること

フラッシュバルブ再生水仕様の場合



※「内（器具心）」向きの口に取り付けること
※下向きに取り付けること

3 フレキ管の取り付け

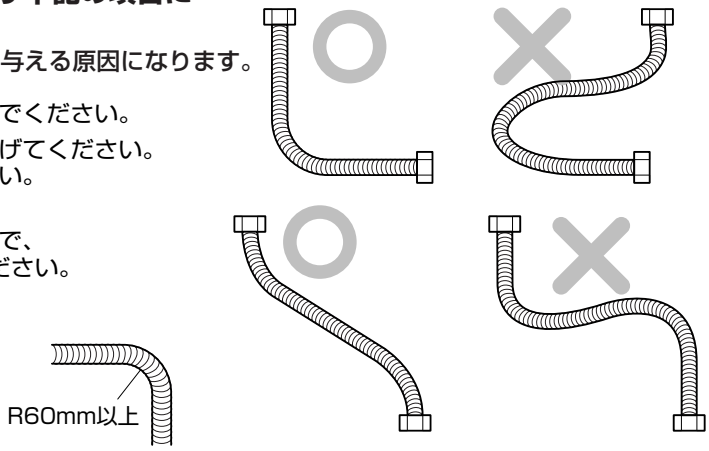
各止水栓とサーモバルブをフレキ管で接続します。
・止水栓（給水管用）とサーモバルブの接続…長さ約600mmのフレキ管で接続します。
・止水栓（給湯管用）とサーモバルブの接続…長さ約400mmのフレキ管で接続します。

⚠注意 必ず実行

フレキ管の取り付けは必ず下記の項目にそれぞれ注意して行う

水漏れにより、財産に損害を与える原因になります。

- ●袋ナットの締め付けに、パイプレンチは使用しないでください。
- ●パイプは、取り付けの前にあらかじめ所定の形に曲げてください。このとき、パイプは小さい角度で曲げないでください。また、袋ナット付け根部分を曲げないでください。
- ●曲げ作業をくり返すと破損するおそれがありますので、1～2回程度の曲げで所定の形になるようにしてください。
- ●必ず同梱のパッキンを使用してください。
- ●袋ナットは十分締め付け、取り付け後、水漏れがないことを確認してください。
- ●パイプは極端におらないでください。R60以上は確保してください。

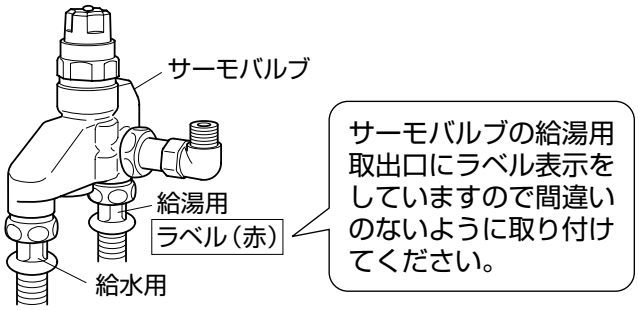


⚠警告

禁止 **湯水を逆に配管しない**

水を出そうとした際に湯が出て、やけどの原因になります。

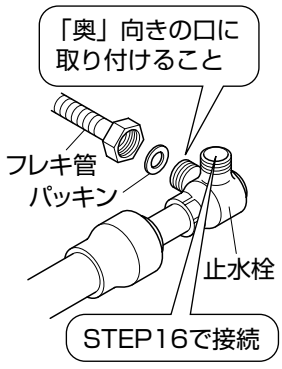
フレームに設置されているサーモバルブの
・奥（壁）側の取り出し口…給湯用
・手前側の取り出し口……給水用
になります。



止水栓（給水管用）は一方の口をサーモバルブと接続し、もう一方の口はシングルレバーと接続します。
下記を参照して、接続する口を間違えないよう取り付けてください。
シングルレバーとの接続は**STEP16**で行います。

Lタイプの場合

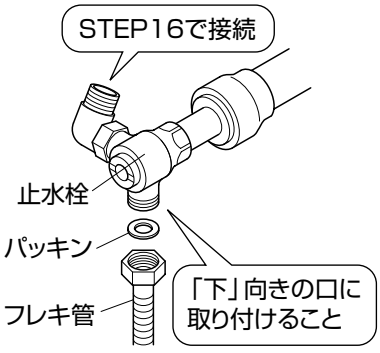
フラッシュバルブ水道水仕様の場合



フラッシュバルブ再生水仕様の場合

Rタイプの場合

フラッシュバルブ水道水仕様の場合



フラッシュバルブ再生水仕様の場合

⚠注意

禁止 **接続する給水口を逆に配管しない**

フレキ管に無理な力がかかってキンクの原因となり、水漏れにより財産に損害を与える原因になります。

STEP11 幅木の取り付け

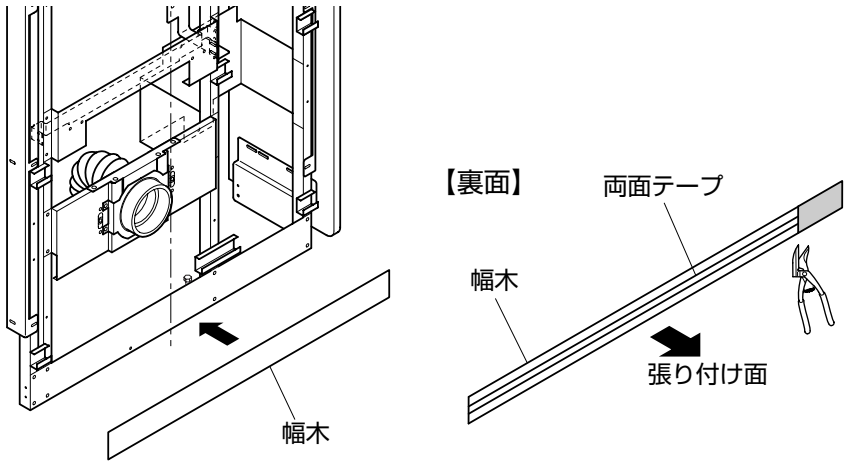
幅木を間口に合わせて切断し、フレームに取り付けます。

1 間口に合わせて幅木を金切りばさみで切断します。
※側板が設置されている側はフレーム横材までの寸法にて切断してください。

2 幅木の養生フィルムをはがします。

3 両面テープを幅木の中央付近に1本、端から端まで張り付けます。

4 フレームに幅木を張り付けます。
幅木と床面、幅木端部と壁面のすき間がないように注意して張り付けてください。

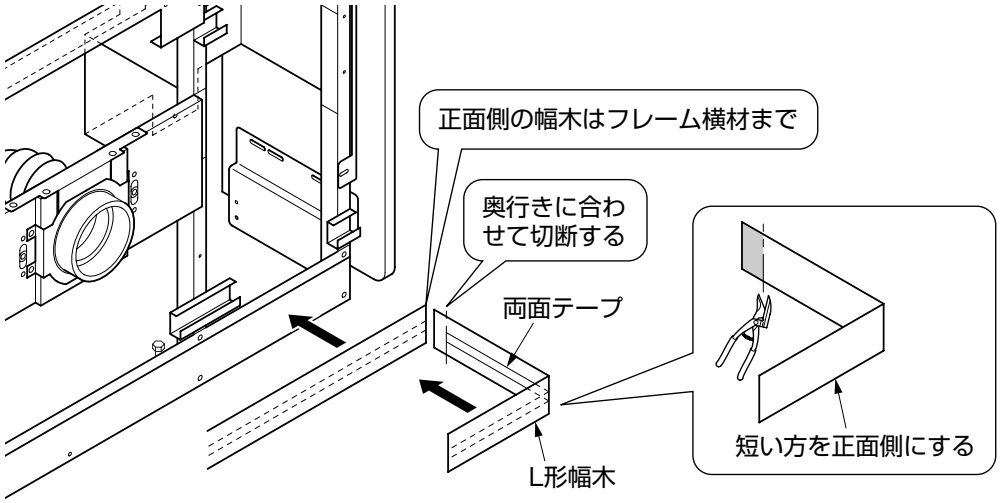


以降の工程は側板ありの場合のみ必要です

5 L形幅木を壁までの奥行きに合わせ、金切りばさみで切断します。
※L形幅木は短い方を正面側にしてください。

6 幅木の養生フィルムをはがし、フレームに同梱の両面テープで張り付けます。
両面テープは幅木の中央付近に1本、端から端まで張り付けます。

7 正面側の幅木に重ねるように、L形幅木を張り付けます。

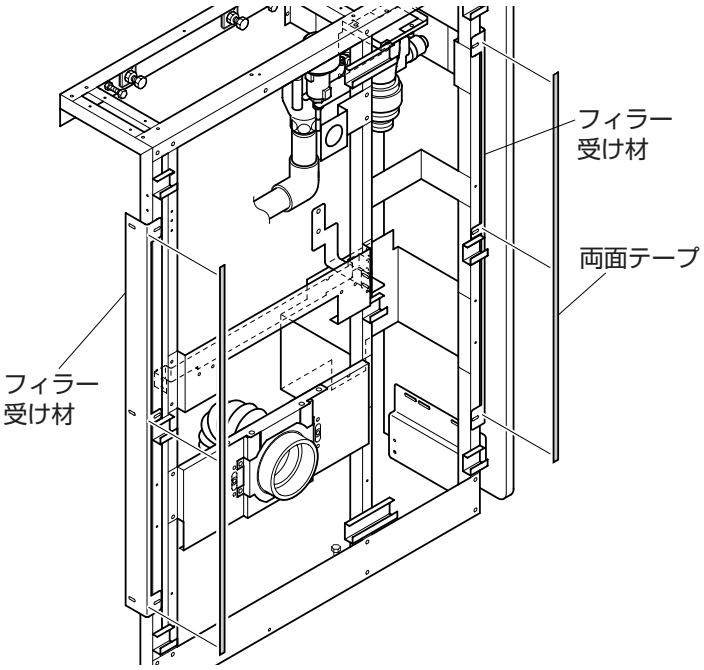


STEP12 フィラーの取り付け

幅木を間口に合わせて切断し、フレームに取り付けます。

①フィラー受け材に両面テープを張り付けます。

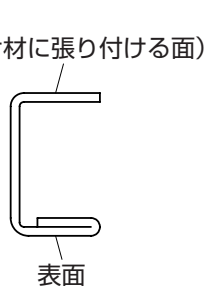
チェック　両面テープを張る前に、フィラー受け材のほこりを取り除いてください。



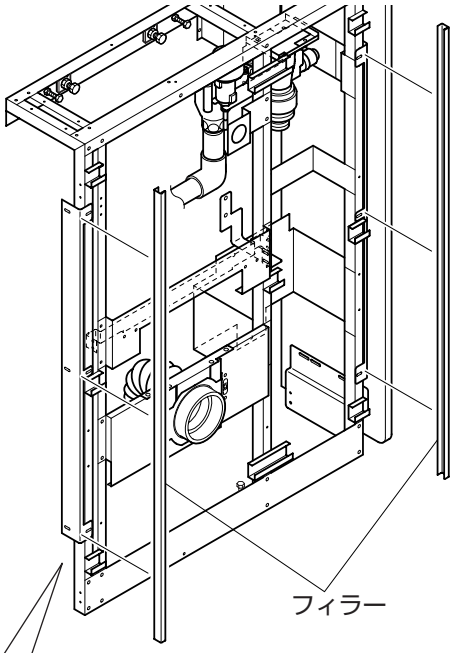
②フィラーを右図のように調整して張り付けます。
床仕上げ面から60㎜離して張り付けます。

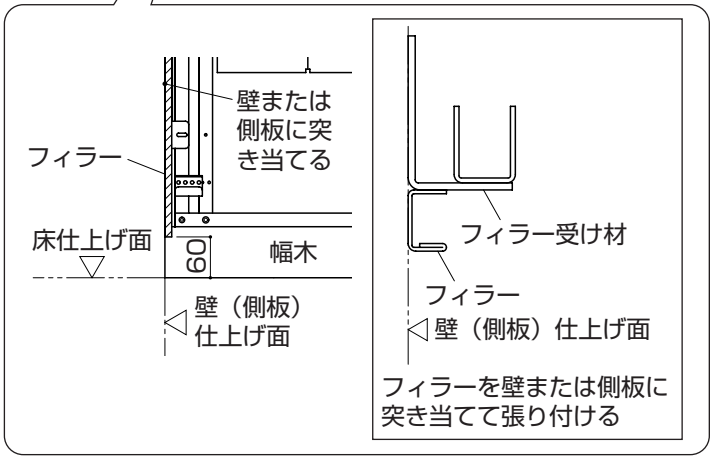
チェック
- 取り付け前に養生フィルムをはがしてください。
- フィラー裏面のほこりを取り除いてください。

ポイント
- 両面テープは接着力が強く、張り直しができませんので、十分注意して張ってください。
- 壁（側板）仕上げ面とすき間がないよう、裏表を間違えないようにフィラーを張り付けてください。



【フィラー断面】



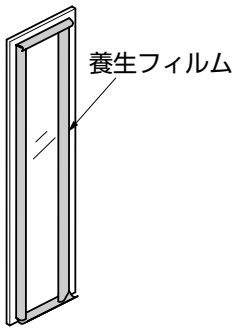


STEP13 前板の取り付け

フレームに前板を取り付けます。

1 養生フィルムはがし

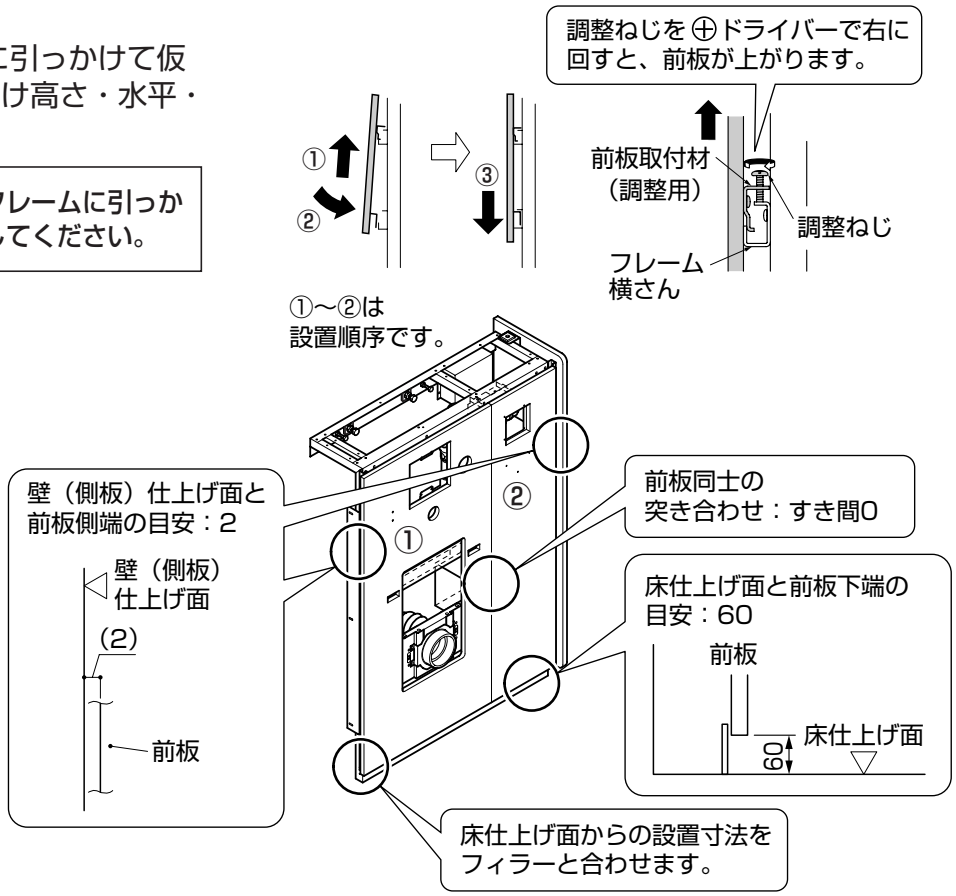
器具裏前板・点検口の養生フィルムを、側面部分のみはがします。



2 前板の取り付け

前板をフレームの横さんに引っかけて仮設置し、調整ねじで取り付け高さ・水平・垂直を調整します。

チェック 前板取付材が上下ともフレームに引っかかっていることを確認してください。



STEP14 汚物流しの取り付け

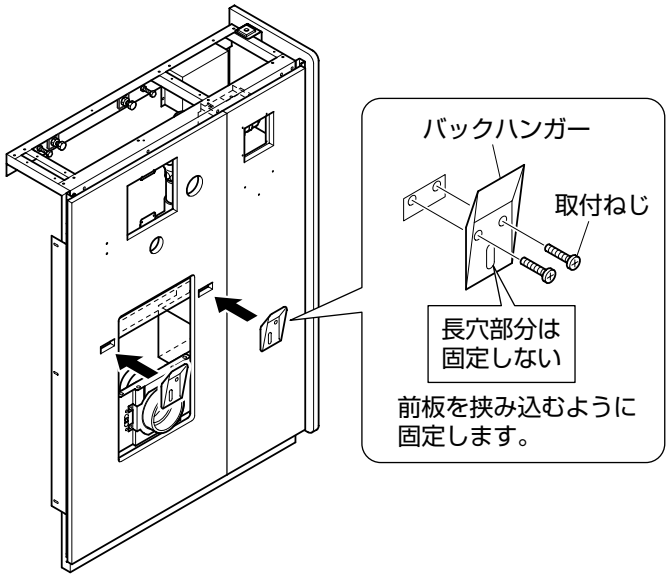
汚物流しを取り付けます。

1 前板の養生フィルムを全てはがす

2 バックハンガーの取り付け

※バックハンガーはフレーム部品箱に同梱

バックハンガーを、バックハンガーに同梱の取り付けねじでフレームに取り付けます。
※バックハンガーは上部2カ所で固定します。長穴部分は固定しません。



3 スパッドの取り付け

汚物流しの取付穴にスパッドを取り付けます。
※スパッドはフレーム部品箱に同梱

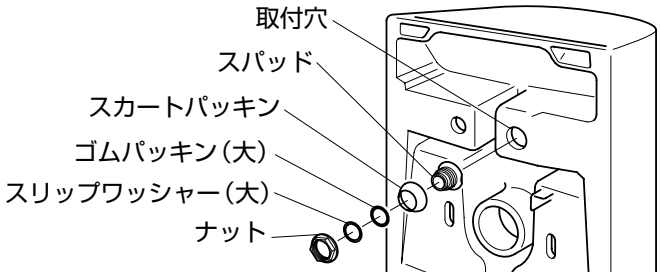
①スパッドを取付穴に差し込む。
右図のように切り落とし部以外から取付穴に入れ、切り落とし部を通過させるように差し込んでください。
※はじめに切り落とし部から差し込むと、取付穴と干渉し、通過しない場合があります。

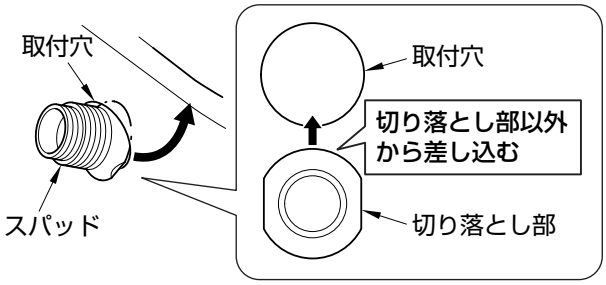
②スカートパッキンを取付穴に差し込み、スパッドに組み込みます。

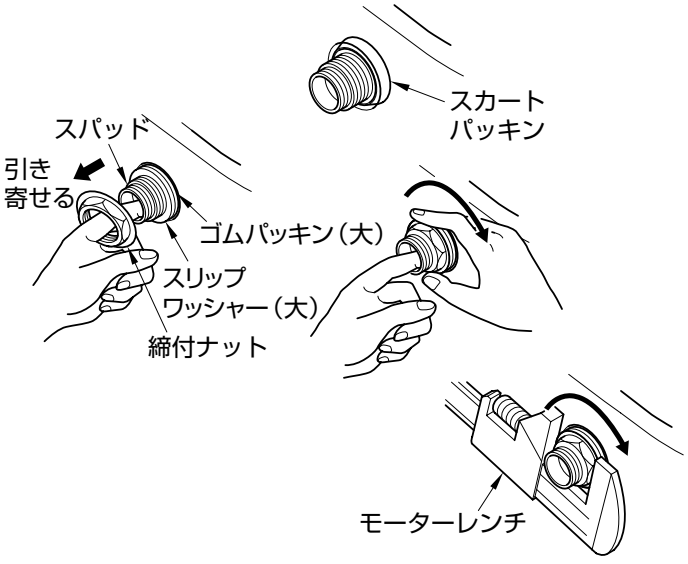
③ゴムパッキン(大)・スリップワッシャー(大)の順にスパッドに組み込みます。

④あらかじめ指に締付ナットを通し、スパッドを取付穴の中心で引き寄せ、締付ナットを手で締め込みます。

⑤最後にモーターレンチなどの工具を使用して確実に締め込みます。







4 排水パッキンの取り付け

※排水パッキンは単独排水管継手に同梱

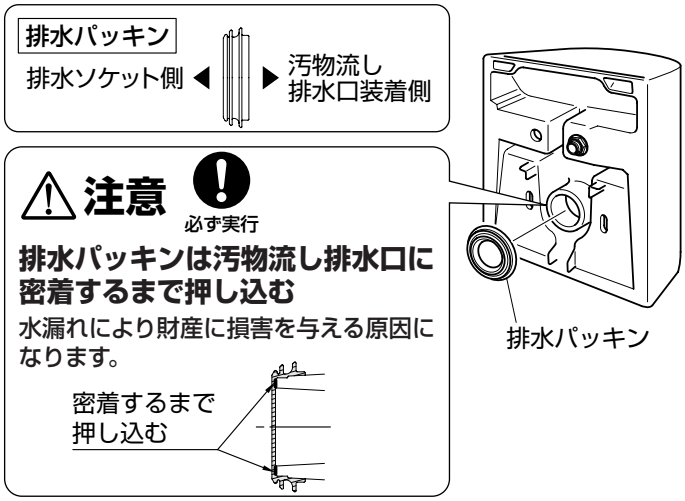
⚠ 注意

禁 止

排水パッキン表面に必ず水または石けん水をつけてから差し込み、グリスは使用しない

劣化して水漏れを起こし、財産に損害を与える原因になります。

汚物流し排水口外周のゴミや水分などを除き、排水パッキンの向きを確認し、装着します。



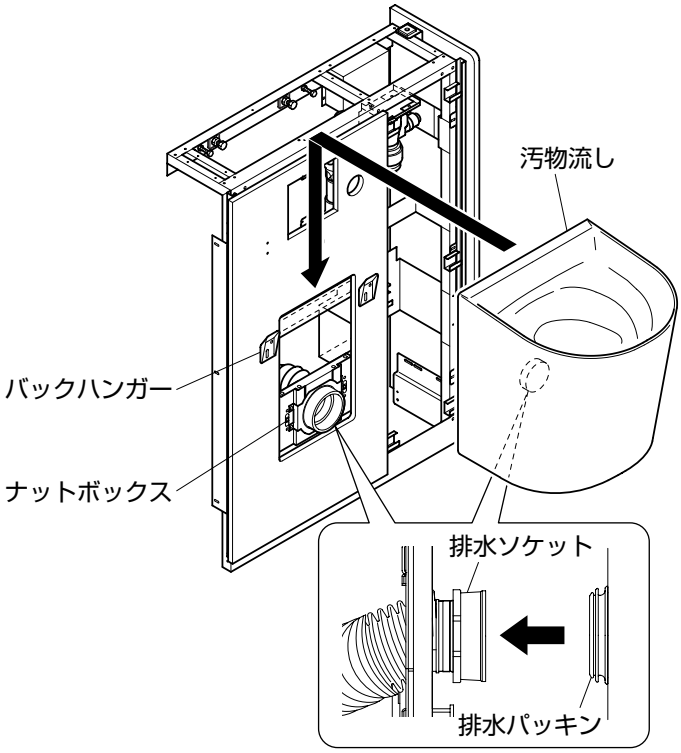
5 汚物流しの取り付け

汚物流しをバックハンガーに引っかけながら、排水パッキンが排水ソケット内にスムーズにはまるよう挿入してください。

⚠ 注意

禁 止

- **排水パッキン表面に必ず水または石けん水をつけてから差し込み、グリスは使用しない**
  劣化して水漏れを起こし、財産に損害を与える原因になります。
- **排水パッキンを他の部位にぶつけない**
  シール性が確保できなくなり、水漏れを起こし、財産に損害を与える原因になります。
- **排水パッキンを強引に挿入しない**
  パッキンがめくれて水漏れを起こし、財産に損害を与える原因になります。



チェック 陶器を引っかける際、前板を傷つけないように注意してください。

6 汚物流しの固定

※便器取付ボルトはフレーム部品箱に同梱

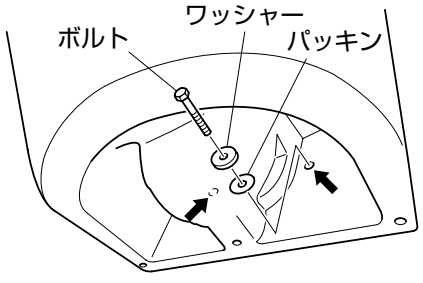
排水ソケット左右のナットに便器取付ボルトをねじ込み、固定します。（2カ所）

⚠ 注意

禁 止

ボルトをきつく締めすぎない

陶器が割れ、けがの原因になります。また、器具裏前板と点検口に面段差が生じます。



STEP15 洗浄管の取り付け

フラッシュバルブと汚物流しを洗浄管で接続します。
本STEPにおいて、接続継手は電気温水器あり仕様を示していますが、電気温水器なし仕様も同様の施工になります。

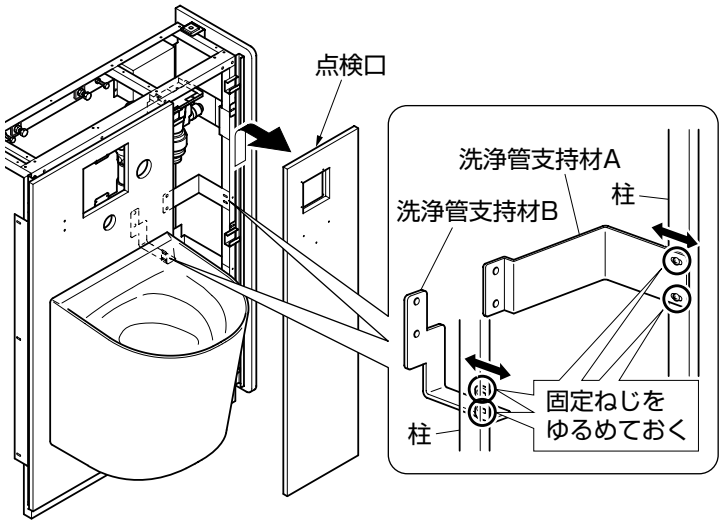
1 点検口の取り外し

器具裏前板を残し、点検口を取り外します。

ポイント　取り外した点検口は、後で設置するまで、傷つきや破損しないように、大切に保管してください。

2 洗浄管支持材固定ねじの取り外し

洗浄管支持材の固定ねじをゆるめておきます。（完全には取り外さないでください。）



3 接続継手の取り付け

フラッシュバルブのバキュームブレーカーに接続継手を取り付けます。

チェック　接続継手の上下の向きに注意してください。（袋ナットが取り付いている方が上です）

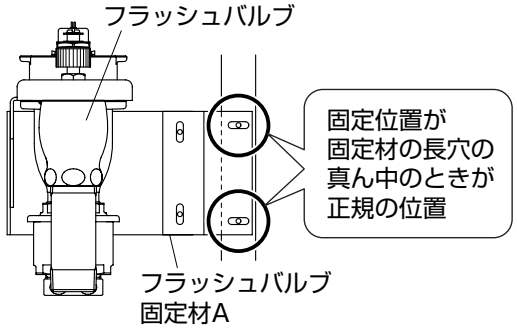
4 洗浄管の取り付け

接続継手に洗浄管を取り付けます。
スパッドに接続する部分は現場の状況に合わせて洗浄管をカットして調整してください。

【洗浄管カット寸法の目安】

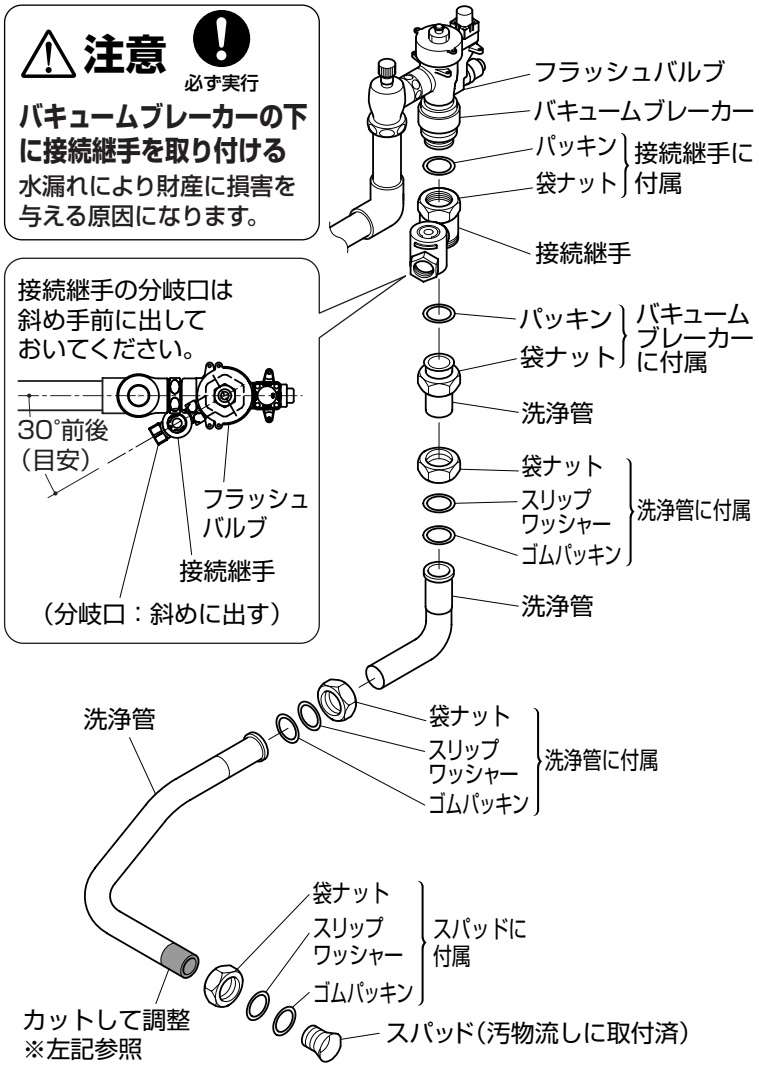
フラッシュバルブが正規の位置に取り付けられている場合、洗浄管のカット寸法は28mmとなります。

フラッシュバルブの設置位置によって、洗浄管のカット寸法が変わりますので、下記を参考にして、フラッシュバルブ固定材Aの位置を目安に、洗浄管のカット寸法を算出してください。



⚠注意　必ず実行

バキュームブレーカーの下に接続継手を取り付ける
水漏れにより財産に損害を与える原因になります。

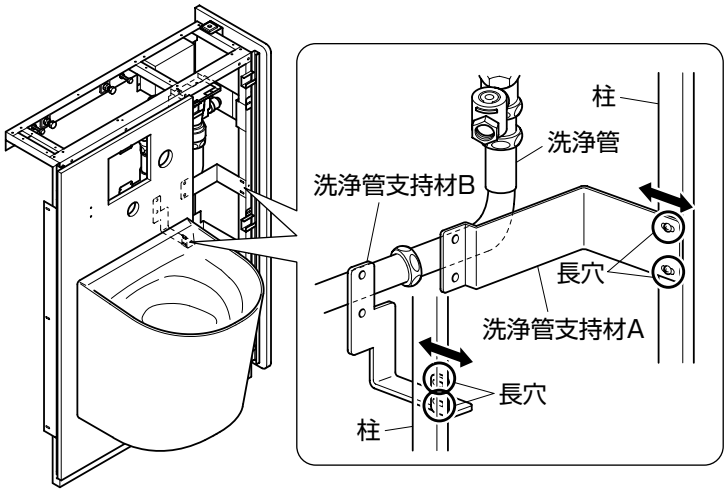


5 スパッドの連結

洗浄管とスパッドを連結させ、袋ナットで締め付けます。

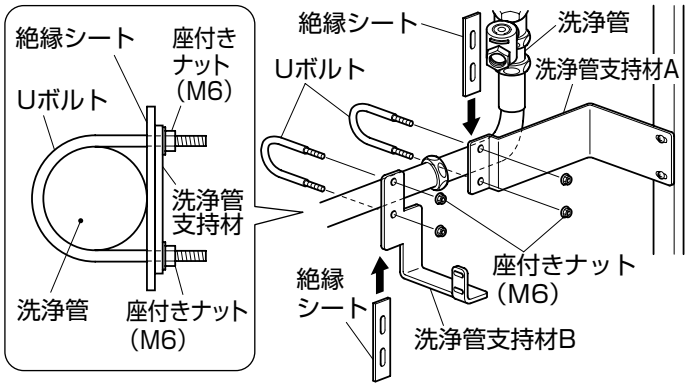
6 洗浄管支持材の調整

洗浄管支持材を長穴内で調整し、洗浄管に突き当てた後、固定します。(各2カ所)



7 洗浄管の固定

洗浄管をフレームにUボルトで固定します。(2カ所)
洗浄管と洗浄管支持材の間に、絶縁シートをはさんで座付きナットM6で固定してください。



⚠ 注意

必ず実行

全ての連結部が締まっていることを確認する。また、水漏れ防止のためフラッシュバルブの一次側接続部、汚物流し固定部を増し締めする

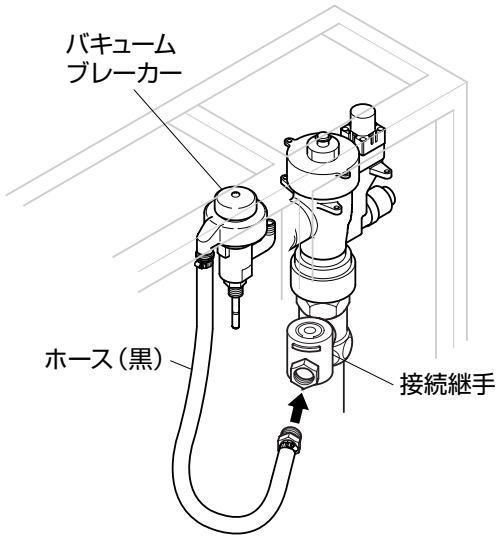
水漏れにより財産に損害を与える原因になります。

8 バキュームブレーカーの接続

バキュームブレーカーのホース(黒)を接続継手に接続します。

ポイント

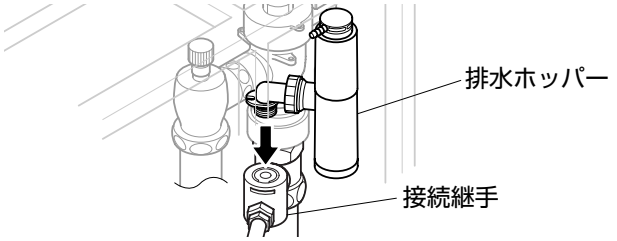
ホースにねじれが生じないように、注意してホース(黒)と接続継手を固定してください。



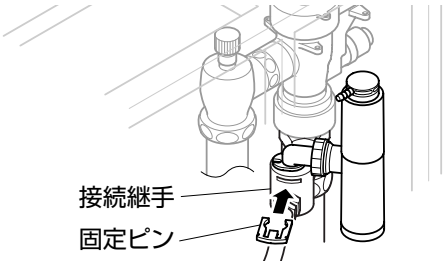
9 排水ホッパーの取り付け

電気温水器なし仕様の場合は本作業は必要ありません。**STEP16**にお進みください。

①排水ホッパーを接続継手の上部に取り付けます。



②接続継手の溝に固定ピンを差し込みます。



⚠ 注意

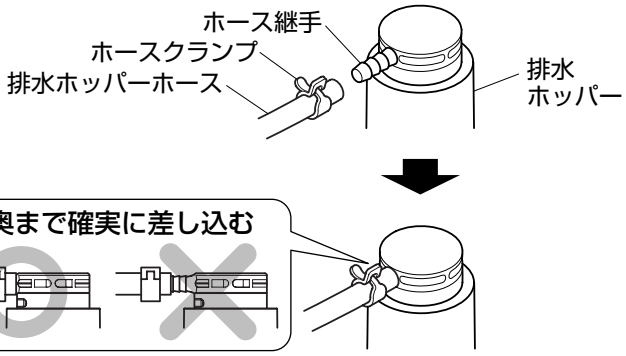
必ず実行

排水ホッパー、固定ピンが確実に取り付いているか確認する

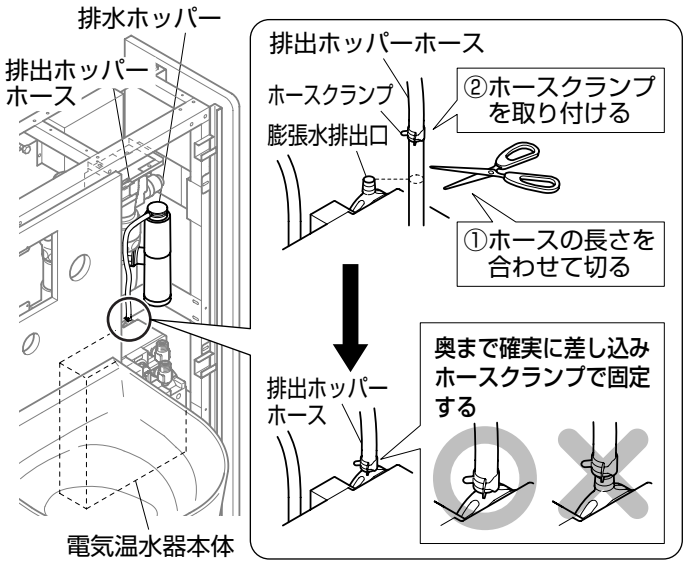
水漏れにより財産に損害を与える原因になります。

③排水ホッパーホースにホースクランプを取り付けます。

④排水ホッパーのホース継手に排水ホッパーホースを奥まで確実に差し込み、ホースクランプでしっかり固定します。



⑤電気温水器の膨張水排水口に排水ホッパーホースを取り付けます。
排水ホッパーホースがたるまないように長さを合わせてはさみなどで切断してください。



チェック

- ●排水ホッパーホースの切断面が垂直になるように切断してください。
- ●排水ホッパーホースが長すぎると折れ曲がり、排水ができなくなります。
- ●電気温水器から排水ホッパーまでの間が逆勾配になっても支障はありません。

⚠ 注意

必ず実行

排水ホッパーホースは継手の根元まで手で差し込み、ホースクランプを確実に取り付ける

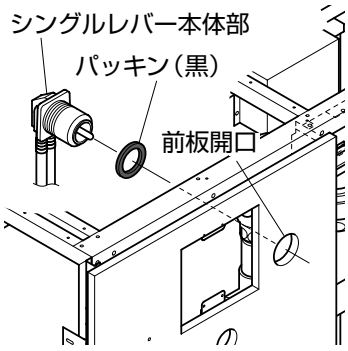
水漏れにより財産に損害を与える原因になります。

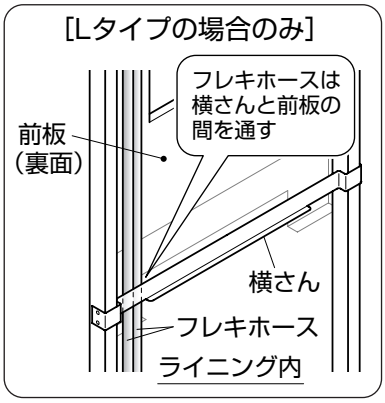
STEP16 シングルレバーの取り付け

水栓のシングルレバーを取り付けます。

1 シングルレバーの取り付け

ライニング内からシングルレバー本体部を前板開口に挿入し、手前に出します。



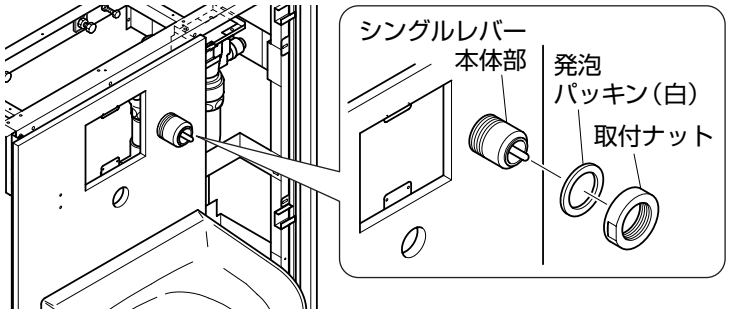


チェック

Lタイプの場合のみ、ライニング内のシングルレバーのフレキホースは、横さんと前板の間を通します。
水受けトレイが、フレキホースの裏側に取り付けられるので、フレキホースを横さんの外側に通すと水受けトレイが干渉し、取り付きません。
Rタイプの場合は横さんの外側を通してください。

2 シングルレバーの本固定

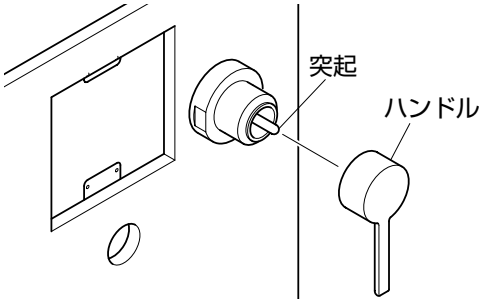
①取付ナットを工具で締め込んでシングルレバー本体部を固定します。



ポイント

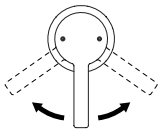
・取付ナットを締め付けるとき、布などを当てて前板や取付ナットを工具で傷つけないように気を付けてください。
・取り付け後、本体部が回転しないことを確認してください。

②ハンドルを本体の突起に差し込みます。

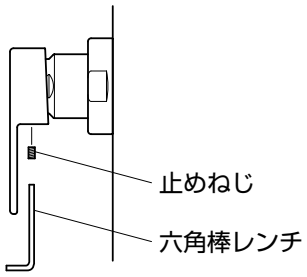


チェック

ハンドルの向きを確認してください。
ハンドルの動作範囲は下記のようになります。



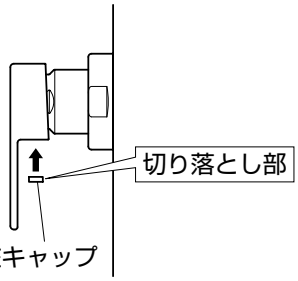
③ハンドルと本体を、六角棒レンチ（呼び寸法3mm）を使って止めねじで固定します。



チェック

ハンドルを操作して、確実に取り付いていることを確認してください。

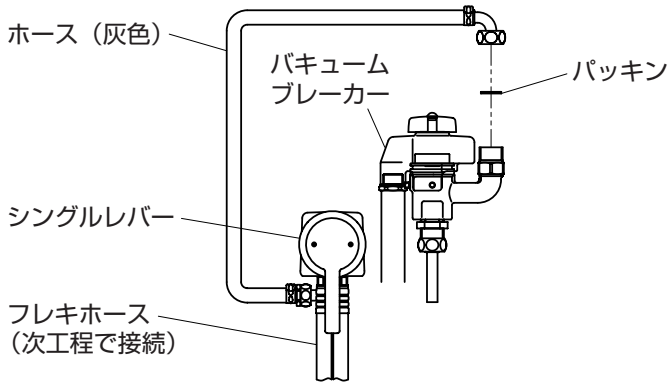
④固定用の穴に化粧キャップを取り付けます。



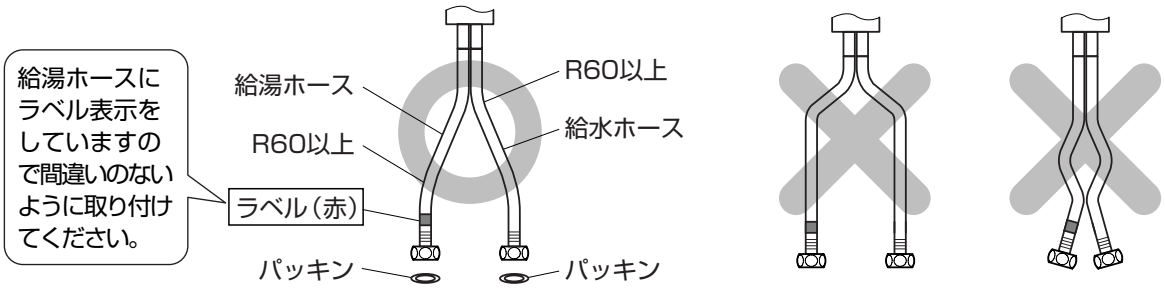
チェック

化粧キャップの向きを確認してください。
水栓の根元側に切り落とし部がくるように取り付けてください。

⑤シングルレバーのホース（灰色）を
バキュームブレーカーに接続します。



⑥シングルレバーの給水・給湯ホース（フレキホース）を接続します。



⚠注意

禁止	**ホースを必要以上の力で曲げて折らない** ホースの最小曲げ半径は60mmです。それよりも小さく曲げて使用するとホースが折れ、十分な流量が出ない場合や、破損して水漏れにより、財産に損害を与える原因になります。	禁止	**ホースを水栓本体端面から極端に屈曲して施工しない。** **また、ホースを無理に引っ張らない** ホースが折れ、十分な流量が出ない場合や、破損して水漏れにより、財産に損害を与える原因になります。
	ホースを必要以上に接触させない 外部補強層の摩擦による外傷でホース性能の劣化のおそれがあります。	必ず実行	**ホースを接続する際にパッキンの入れ忘れがないか確認する** 水漏れにより、財産に損害を与える原因になります。

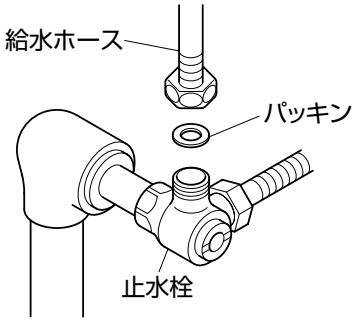
電気温水器あり仕様の場合

給水・給湯ホースを電気温水器の出水口・出湯口に接続します。

詳細は電気温水器に同梱の施工説明書「取付手順」を参照してください。

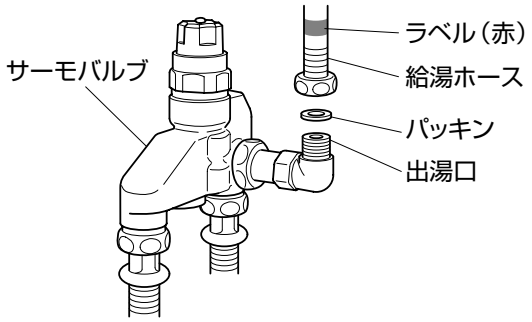
電気温水器なし仕様の場合

・給水ホースを給水管用止水栓に接続します。



※上図はLタイプ･フラッシュバルブ
再生水仕様の場合を表します。

・給湯ホースをサーモバルブの出湯口に接続します。



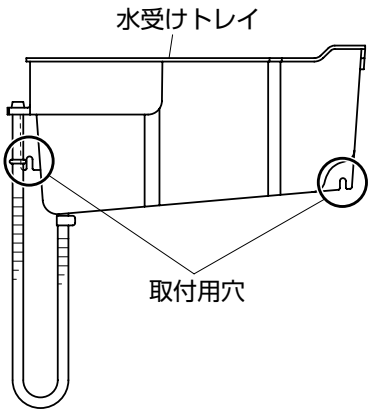
※上図はLタイプの場合を表します。

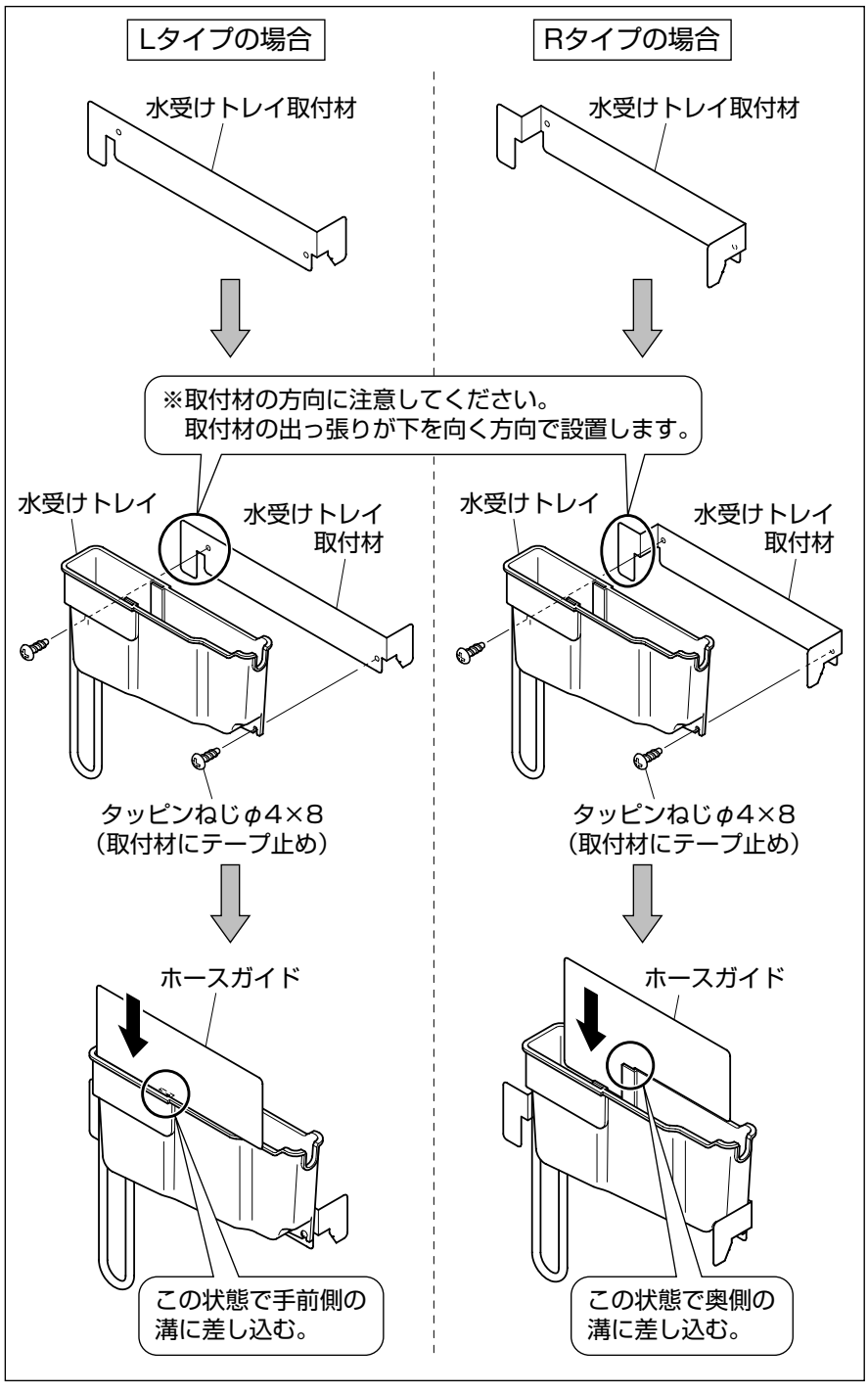
STEP17 水受けトレイの取り付け

水栓の水受けトレイをフレームに取り付けます。

1 水受けトレイ取付材の取り付け

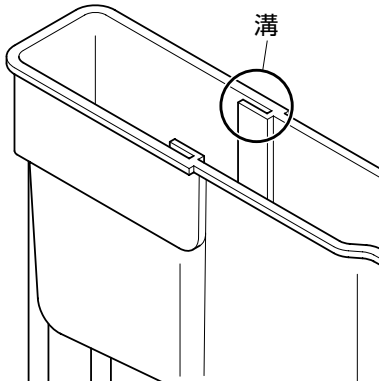
水受けトレイに水受けトレイ取付材を取り付けます。
水受けトレイの取付用穴を介して、取付材にタッピンねじφ4×8で固定します。
LRタイプ違いで水受けトレイ取付材の形状が違います。
下図を参照してください。

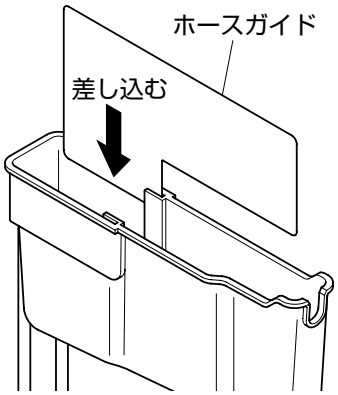




2 ホースガイドの取り付け

水受けトレイの内側の溝に
ホースガイドを差し込みます。

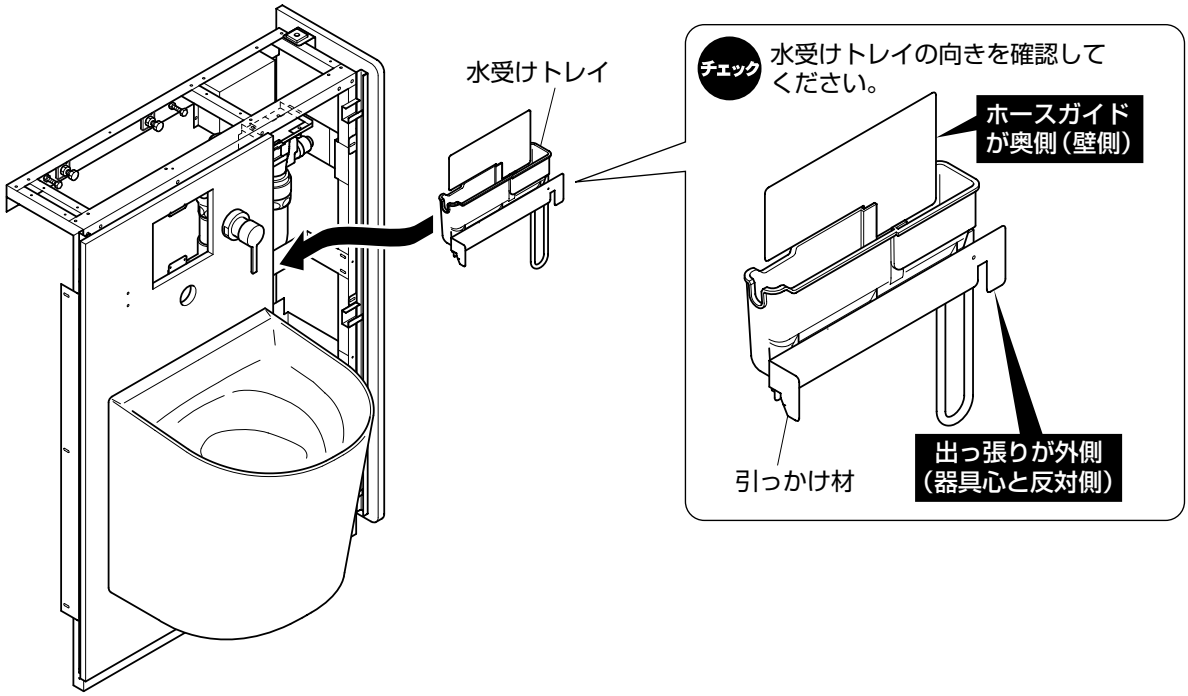




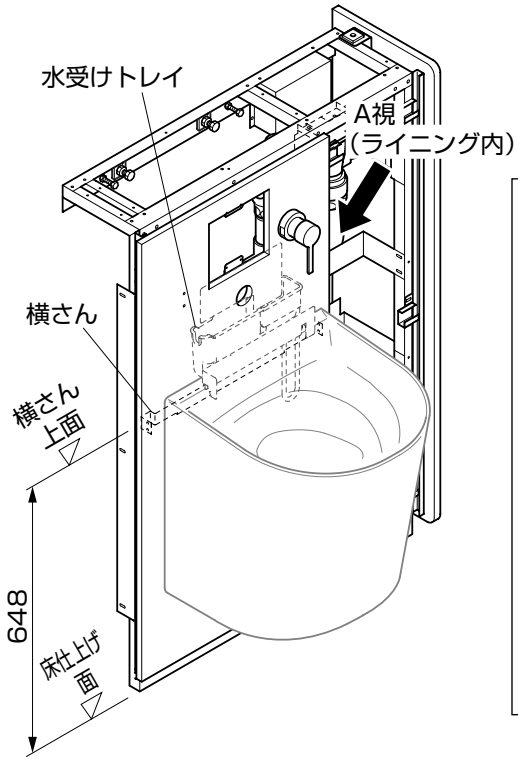
チェック ホースガイドが溝に正しく差し込まれていることを確認してください。
正しく差し込まれていないと水栓が取り付きません。

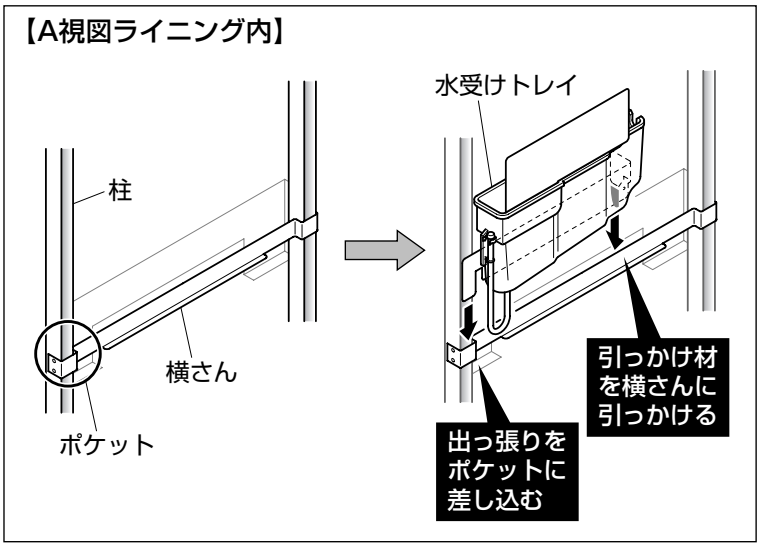
3 水受けトレイの取り付け

フレームに水受けトレイを取り付けます。



ライニング内に水受けトレイを入れます。
フレームの横さんに水受けトレイ取付材の引っかけ材を引っかけて、フレームの柱の裏のポケットに水受けトレイ取付材の出っ張りを差し込みます。



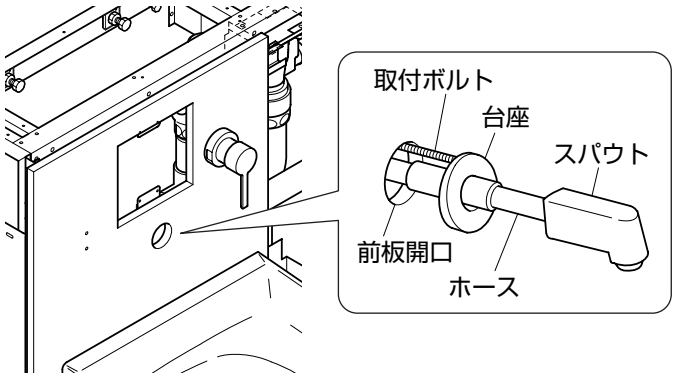


STEP18 水栓スパウトの取り付け

水栓のスパウトを取り付けます。

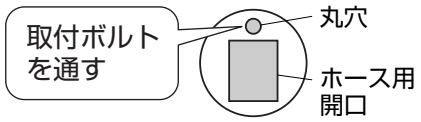
1 台座の取り付け

①スパウトのホースを、正面から前板開口に通します。



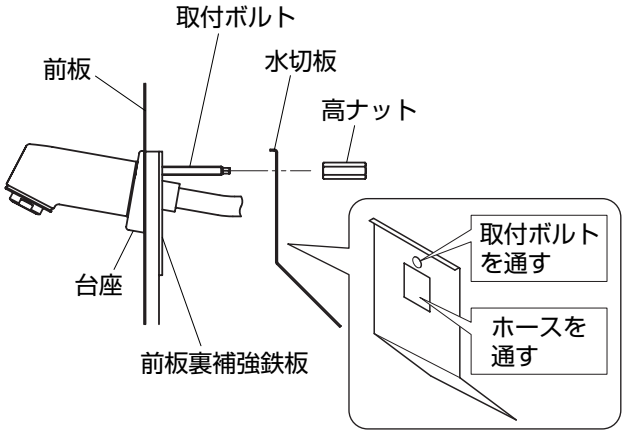
ポイント

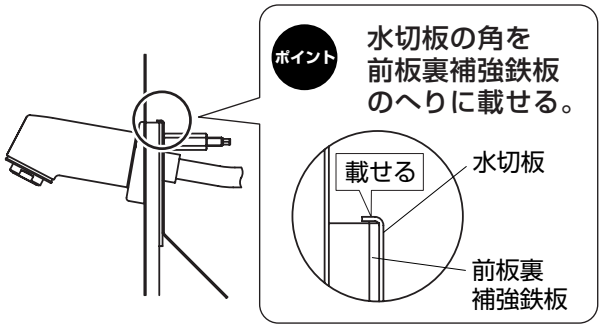
取付ボルトを前板のホース用開口の上部の丸穴に挿入します。



前板開口部正面図

②ライニング内のホースに水切板を通し、高ナットで台座・水切板を前板に固定します。





⚠ 注意

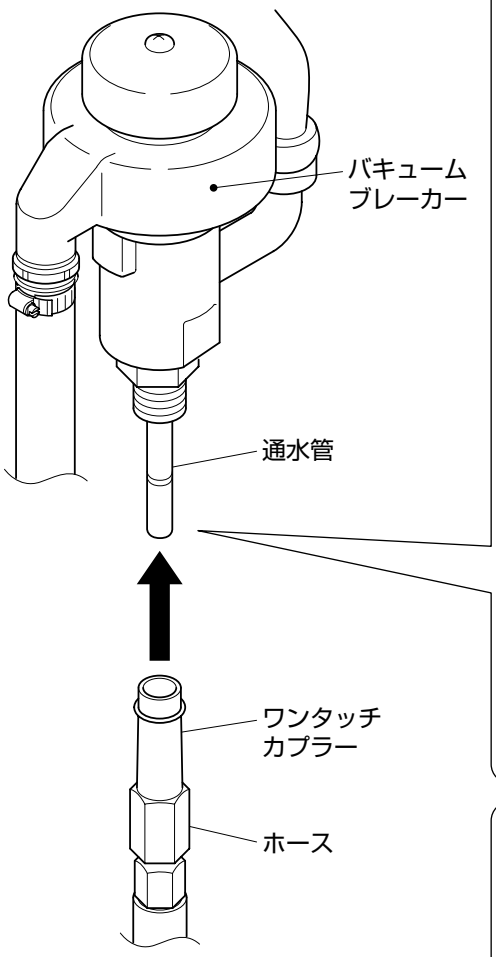
水切板は必ず正しい位置に取り付ける

水切板は水栓使用時に、ホースを伝ってライニング内に入った水を水受けトレイに誘導する役割があります。
水切板が正しい位置に取り付いていないと、水受けトレイにうまく水が入らず、財産に損害を与える原因になります。

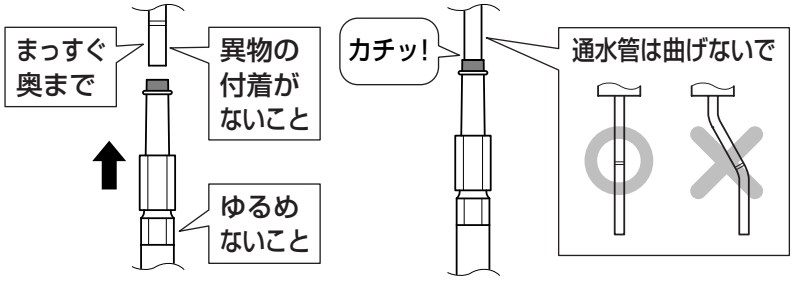
必ず実行

2 ホースの接続

スパウトのホースを、バキュームブレーカーに接続します。



ワンタッチカプラーをバキュームブレーカーの通水管にまっすぐ差し込みます。
「カチッ」と音がして、それ以上差し込めなくなるまで差し込んでください。念のためもう一度ホースを奥まで差し込んでください。



⚠ 注意

必ず実行

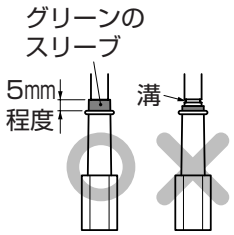
ワンタッチカプラーは通水管にまっすぐ奥まで差し込む

奥まで差し込まなかった場合、不完全な差し込み状態となり、水漏れにより財産に損害を与える原因になります。

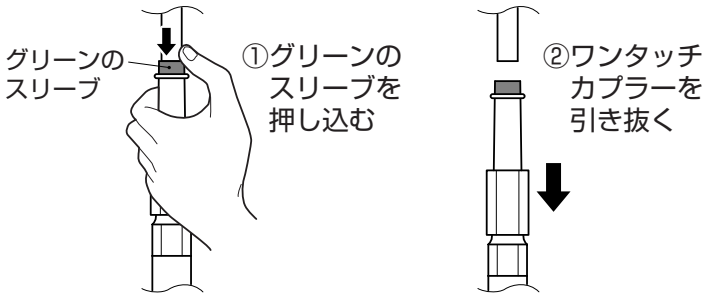
【取り付け後の確認】
下記の項目を必ず確認してください。

チェック

- 通水管の溝が隠れていること
- ホースのグリーンのスリーブが5mm程度出ていること
- ホースをまっすぐ下に引っ張っても外れないこと

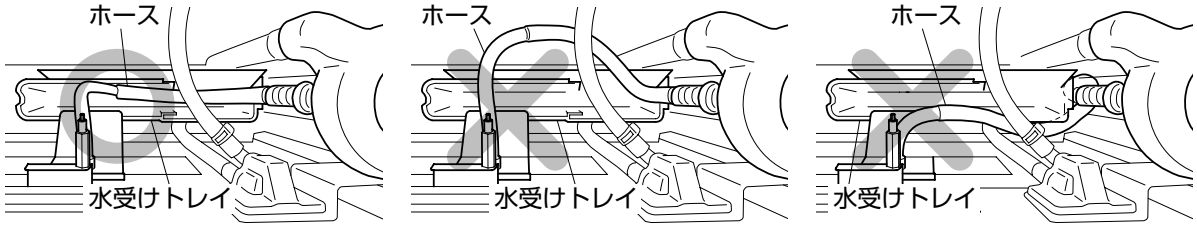


【ホースの取り外し方法】
ホースを取り外す際は、下記の要領で作業ください。



スパウトを台座に収納した際に、スパウトのホースが水受けトレイに納まっているかどうか、フレームの上面から確認してください。

チェック



STEP19 水石けん入れの取り付け

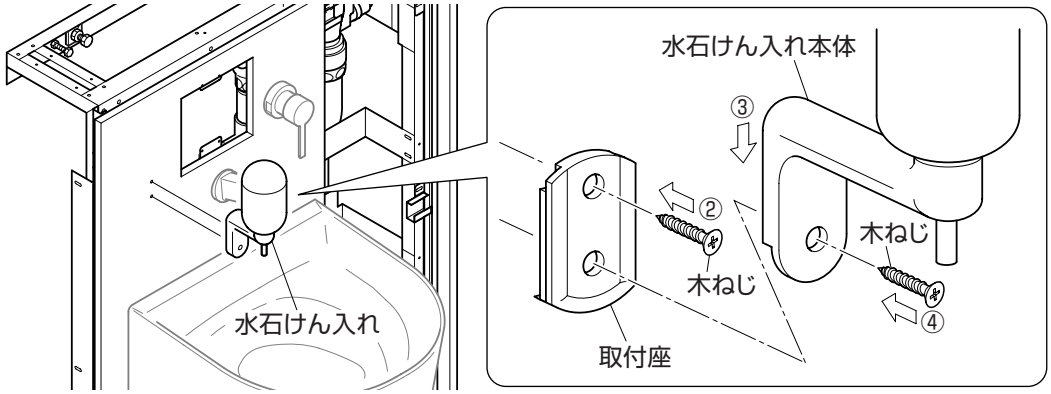
前板の下穴に水石けん入れを取り付けます。

①前板の下穴に合わせて前板裏の補強木にφ3程度の下穴をあけます。

②取付座の上方だけを木ねじで固定します。

③固定した取付座に本体を上から差し込みます。

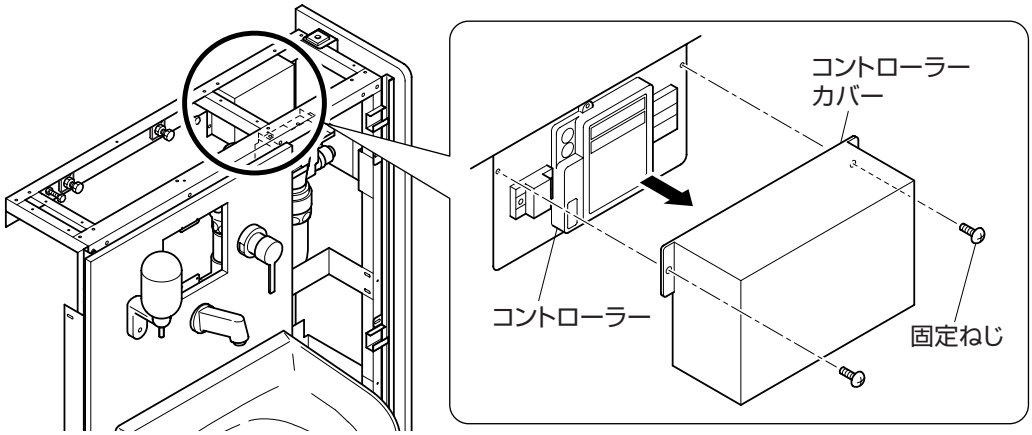
④本体の取付穴と取付座の下方の取付穴が一致していることを確認したのち、木ねじで本体を固定します。



STEP20 結線作業

1 コントローラーカバーの取り外し

コントローラーカバーを取り外します。
（取り外したねじは後で使用します）



2 結線

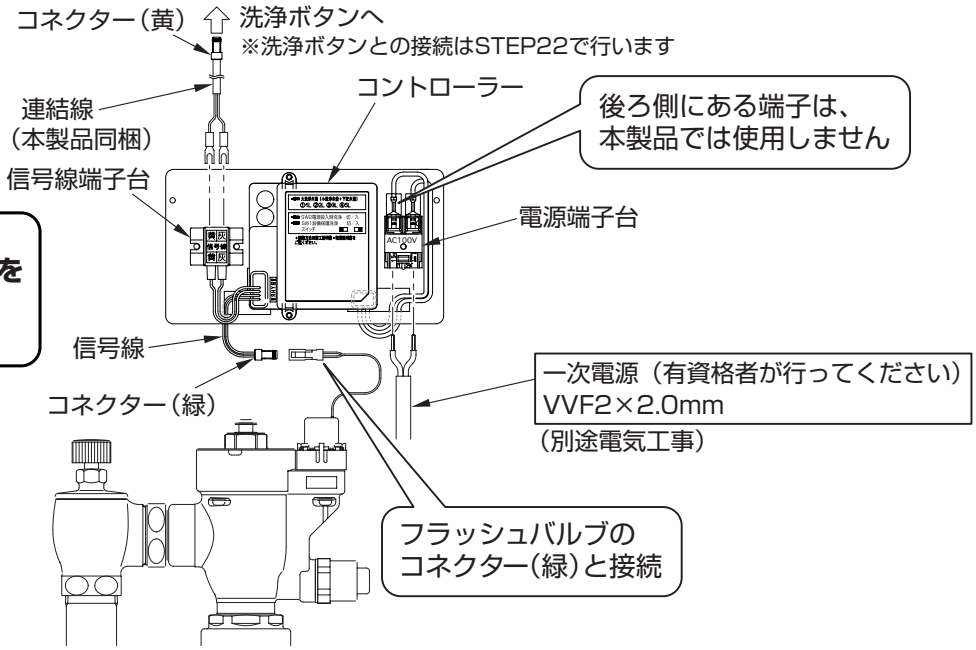
⚠ 警告

禁止	**通電時は電源線、および電源端子台には絶対に触れない** 特に改修等では通常通電状態の場合があり、感電のおそれがあります。	必ず実行	**1次電源との接続は必ず有資格者が行う** **電源線は端子台の奥までしっかり差し込んで接続する** 火災や通電不良の原因になります。

⚠ 注意

必ず実行	**電源線、接地線（アース）等、電源端子台の表示を確認の上、正しく接続する** 火災や通電不良の原因になります。

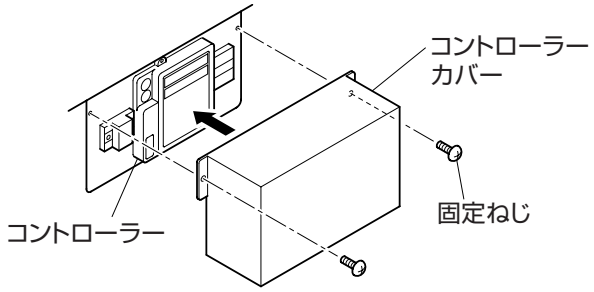
電源線、連結線、信号線をそれぞれ接続します。



必ず実行 **信号線端子台に記載の「黄、灰」とコードの色を合わせて接続する**
正しく作動しません。

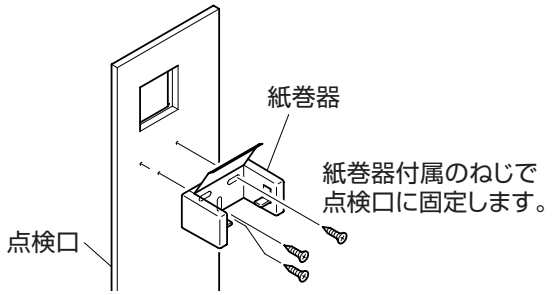
3 コントローラーカバーの取り付け

コントローラーカバーを取り付けます。



STEP21 紙巻器の取り付け

点検口の下穴に合わせて、点検口裏の補強木にφ3程度の下穴をあけ、紙巻器付属のねじで紙巻器を取り付けます。

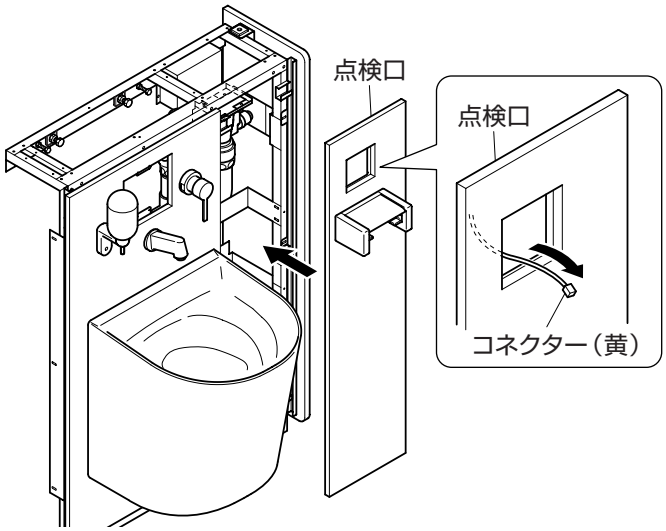


STEP22 洗浄ボタンの取り付け

点検口に洗浄ボタンを取り付けます。

1 点検口の取り付け

点検口を取り付けます。
（器具裏前板と位置が合わない場合は再度**STEP13**を参照の上、調整してください）
この時、連結線の先端（コネクター：黄）を洗浄ボタン用の開口から手前に引き出しておきます。

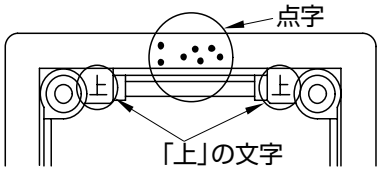


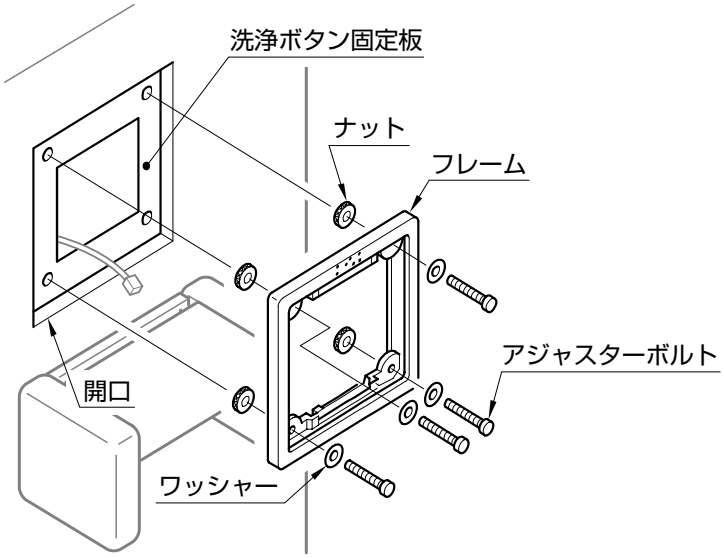
2 フレームの取り付け

点検口の洗浄ボタン固定板に、洗浄ボタンのフレームを固定します。

チェック フレームにそりが出ると、スイッチユニット付カバーががたついたり、器具が破損したりしますので注意してください。

チェック フレームは方向性がありますので、取り付けの際には注意してください。





3 洗浄ボタンの結線

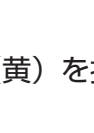
連結線と洗浄ボタンのコネクター（黄）を接続します。

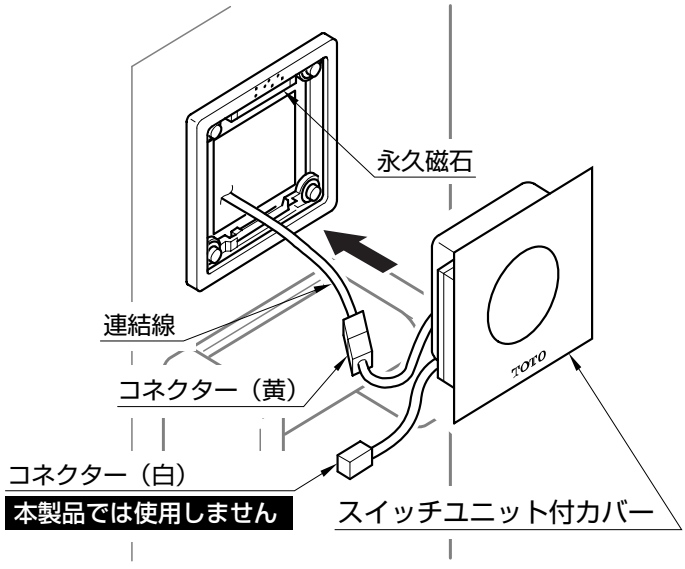
チェック スイッチユニット付きカバーを落下させるとコードがコネクターから抜けるおそれがありますので注意してください。

4 スイッチユニット付カバーの取り付け

スイッチユニット付カバーをフレームの永久磁石の部分に吸着させ、フレームに確実に取り付けてください。

チェック 製品に付属の吸盤は、日頃のお手入れやメンテナンス時に使用しますので、取扱説明書などと一緒に、必ずお客様にお渡しください。


吸盤



STEP23 鏡の取り付け

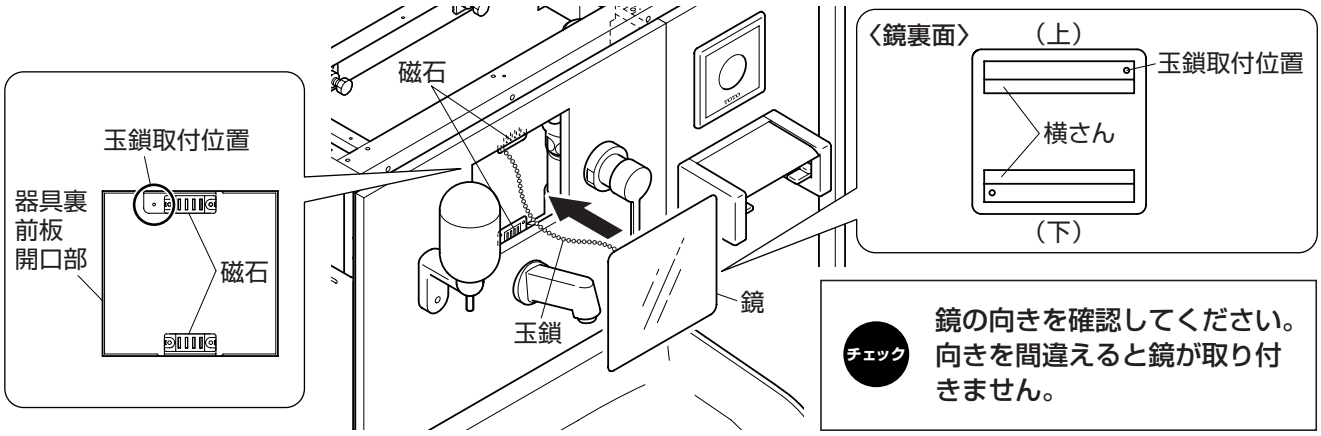
1 玉鎖の取り付け

※玉鎖、取付ねじはフレーム部品箱に同梱

器具裏前板開口部のフレームと鏡裏の横さんに玉鎖をタッピンねじφ4×8で取り付けます。

2 鏡の取り付け

器具裏前板開口部の上下に取り付けてある磁石に鏡裏の横さんを吸着させて取り付けます。



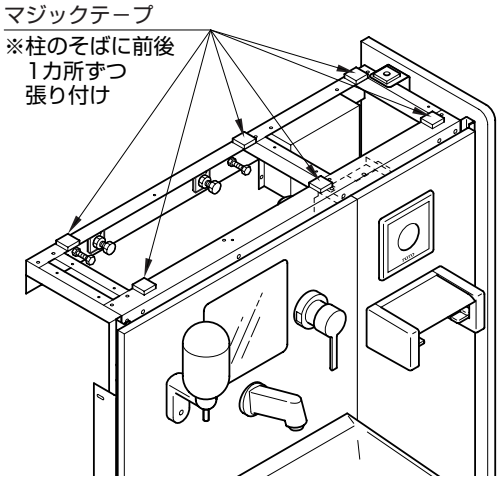
チェック 鏡の向きを確認してください。向きを間違えると鏡が取り付きません。

STEP24 甲板の取り付け

フレームに甲板を取り付けます。

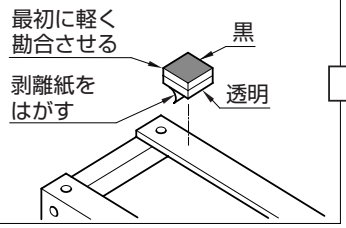
①フレーム上面にマジックテープを張り付けます。

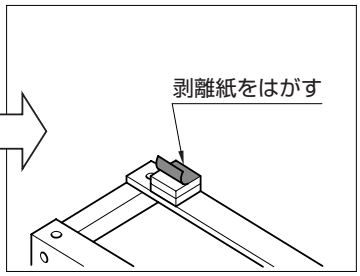
②甲板を下図のように載せてマジックテープを甲板に接着させます。



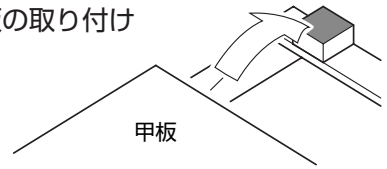
チェック
- マジックテープの張り付け面は、アルコールなどで油分、汚れなどを十分に落としてください。
- 最初のマジックテープ同士の勘合は強く押し込まず、軽く勘合させてください。

1.マジックテープの張り付け





2.甲板の取り付け



甲板を上からそっと押し付け、上から軽くたたいて張り付け固定します。
・目安として、甲板と壁とのすき間は2mmになるよう甲板を取り付けてください。

3.マジックテープが張り付いているかの確認

甲板を一度取り外し、マジックテープ（黒）が甲板の裏面に全て張り付いているか確認してください。甲板に張り付かずにフレーム側に残っている場合はマジックテープ（黒）を外し、フレーム側のマジックテープ（透明）の寸法に合わせて、マジックテープ（黒）を甲板に張り直してください。

ライニング内の器具の点検のため、甲板はシリコンコーキングしないことをおすすめします。

取り付け完了後の確認

外観・固定部の確認

外観の確認

①取り付け忘れの器具がないことを確認

②寸法の確認（奥行き・高さ・間口寸法）

③水平・垂直の確認

④フレーム内部が露出していないことを確認
（前板・フィラー・幅木・甲板が正しく取り付けられているか）

固定部の確認

フレーム、各器具の取付部の固定がゆるんでいないことを確認してください。
甲板全体を強く押し下げて取り付けます。

⚠警告

必ず実行

各部の固定・連結がゆるんでいないことを確認する

器具が落下して使用される方がけがをする原因になります。

水漏れ確認のポイント

給排水管接続部が水漏れしていないことを確認してください。
点検にあたっては、前板や甲板点検口を取り外して作業してください。

①フラッシュバルブ一次側（給水管接続部・止水栓まわり）

②洗浄管・スパッド部

③排水フランジ・排水ジャバラ接続部

④止水栓・水栓・バキュームブレーカー・電気温水器・サーモバルブ接続部

⑤各フレキ管、フレキホースの袋ナット接続部

汚物流しの排水部から水漏れが見られる場合は、排水パッキンの取り付けから再施工してください。

通水試験

通水試験は通水後の給・排水系統、さらにそれらと器具の接続部分の水漏れの有無を確認する大切な作業です。

1 通水試験のポイント

・通水試験は事前に全ての器具、配管等の連結部が完全に接続されていることを確認した後、実施してください。
また、電気配線についても間違いがないことを確認後、通電するようにしてください。

・電気温水器あり仕様の場合、電気温水器の試運転は、電気温水器同梱の施工説明書を確認して実施してください。

・通水試験については、建築・設備担当者または、責任者の承認、指示を受け、その立会いのもとで実施してください。

併せて試験結果を検査表として整理し、立会い者のサインをもらっておくと良いでしょう。

・通水試験時には必ず、2名以上の人員を配備しPS内元バルブ開閉者とトイレパックの水漏れ確認者とに分かれて作業してください。もしも元バルブ以降の配管・器具の外れ、または接合部からの大きな水漏れが発見された場合に、ただちに元バルブ開閉者へ合図・連絡を行うことで速やかな対応ができ、事故を最小限にくい止めることができます。ぜひ守ってください。

・元バルブ開閉は静かにゆっくりと開閉してください。

・PS内には他にもいろいろな配管、バルブ類がありますので、間違わないようよく確認して開閉をしてください。

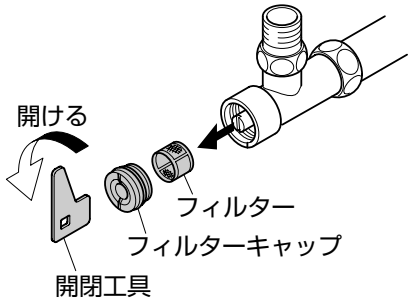
・初期通水の場合、配管工事上の異物が混入していることがあるため、各器具部で詰まり、噛みこみが発生し、正しい流量・作業が確保されないことがありますので注意してください。
（止水栓のフィルター・スパウトの吐水口に詰まった異物はブラシ等で取り除いてください）

⚠ 注意

必ず実行

通水時に止水栓のフィルター清掃を行う（電気温水器またはサーモバルブ用）
フィルターを通ったゴミが機器内に入り、故障や水漏れにより財産に損害を与える原因になります。

フィルター清掃時は、いきなりフィルターキャップをゆるめずに、止水栓を閉めてから行う
水が噴き出して、財産に損害を与える原因になります。

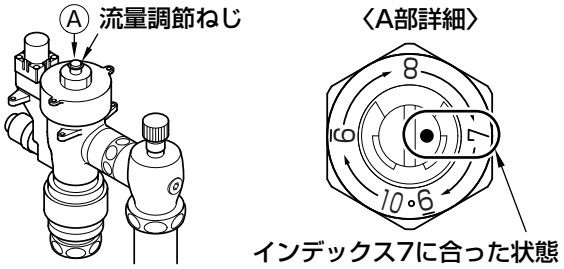


2 必要な水圧（給水・給湯）

最低必要水圧：0.07MPa（流動時）、最高水圧：0.75MPa（静止時）

3 汚物流しの流量調整

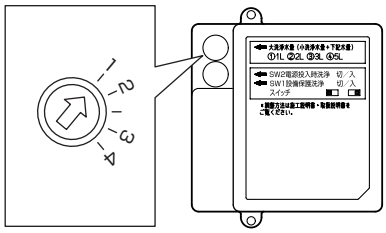
・フラッシュバルブの流量調節ねじがインデックス7に合った状態であることを確認してください。



> **チェック** もし、インデックス7の状態でない時は流量調節ねじを、右回りいっぱいに回した状態からインデックス表示を7に合わせてください。

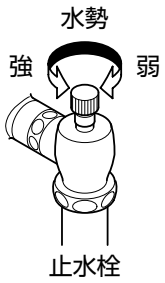
※調節ねじを左に回すと吐水量が増え、右に回すと吐水量が減ります。

・コントローラーのロータリースイッチは1の位置（出荷時状態）でご使用ください。

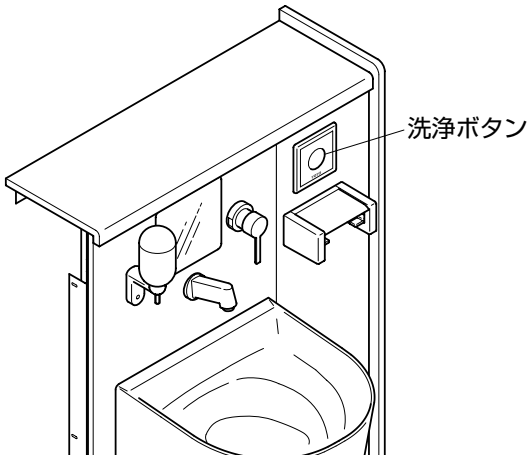


> **チェック** コントローラーの設定がフラッシュバルブ流量調節ねじの値＋1Lとなっていますので、フラッシュバルブがインデックス7の状態で洗浄水量は8Lとしてご使用いただけます。

洗浄時水飛びが生じないように、止水栓ハンドルで水勢調整をします。
右に回すと水勢が弱まり、左に回せば強くなります。
全閉した状態から調整をはじめてください。

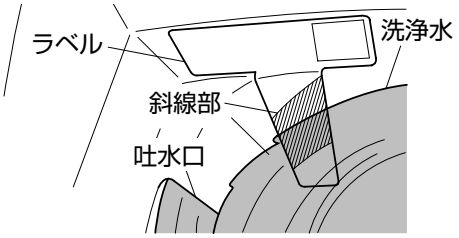


洗浄ボタンを押すと、洗浄水が流れることを確認してください。
ただし、1度洗浄しますと無駄な洗浄を防ぐため、その後約10秒間は再洗浄できませんので注意してください。



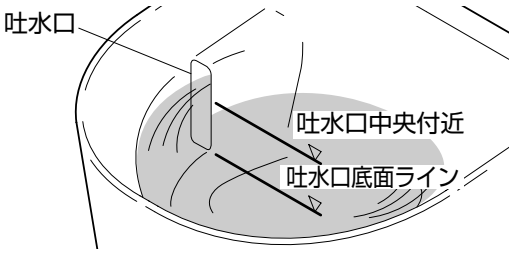
洗浄終わり頃にフラッシュバルブから「ゴゴゴッ」と空気を吸い込むような音がする場合がありますが、異常ではありません。

陶器本体に張られている調整位置を示したラベルの指示にしたがって、ラベルの斜線部分の範囲に洗浄水の水位が来るように調整してください。
必ず、他器具と同時に使用していないことを確認してください。
ラベルは調整後はがしてください。



ラベルをはがしてしまった後の調整目安

吐水口から出て汚物流しボウル面を回り、再度吐水口先端を通過する水流の高さが、吐水口の底面ラインから吐水口中央の間になるように止水栓を調整してください。
また、陶器前面からの水の飛び出しがないことを確認してください。

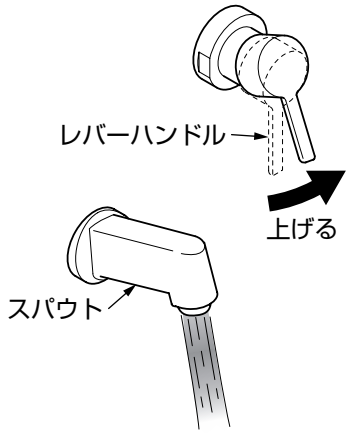


4 水栓の吐水確認

電気温水器あり仕様の場合は、電気温水器に同梱の施工説明書にしたがって電気温水器の試運転も同時に行ってください。

水出し確認

レバーハンドルを上げて、吐水口から水が出るか確認してください。
この時、水栓本体、レバーハンドルにがたつきがないかを確認してください。

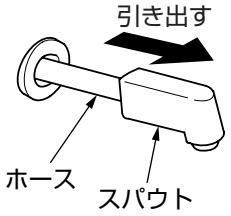


- ●吐水はじめに、一度少量の水が出て一瞬止まり、その後本吐水しはじめます。
  これは、バキュームブレーカーとスパウトの間のホースに残った水が一度スパウトから排出されるものであり、故障ではありません。
  バキュームブレーカーは、水栓の逆流防止のために必要な機構です。
- ●水栓の水を止めたあと、スパウトからしばらく水が垂れることがあります。
  これは水栓内部の残留水が排出されるものです。故障ではありません。
- ●使いはじめにくらべて、しばらくご使用すると、ハンドル操作が重く感じることがありますが、故障ではありません。
  ご使用により商品内部の部品がなじみ、安定したことによるものです。

動作確認

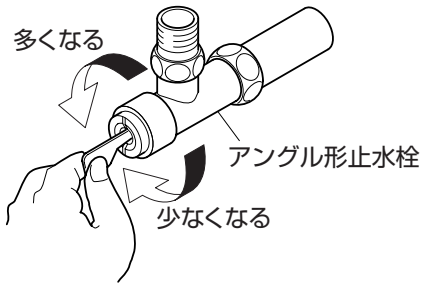
スパウトが汚物流しボウルの先端付近までスムーズに引き出せるか、確認してください。

※引き出せない場合は、ホースがライニング内で各器具に干渉していないか確認してください。



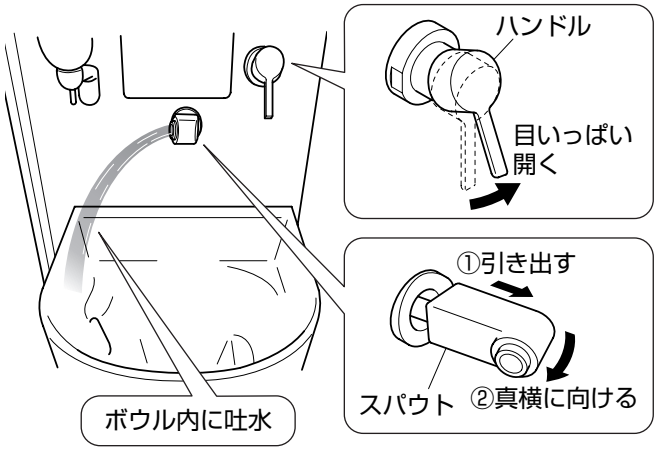
吐水流量の調整、および温度の確認

止水栓で吐水流量の調整をします。
時計回りに回すと水勢が弱まり、反時計回りに回すと水勢が強くなります。
全閉した状態から調整をはじめてください。



〈吐水流量の調整〉

スパウトを軽く引き出し、真横に向けます。
その状態で水栓のハンドルを開き、徐々に流量を上げていきます。
ハンドルを目いっぱい開いても、吐水が汚物流しのボウル内に納まるように、止水栓で水勢を調整ください。
また、ハンドルを左右に回し、どの位置でもボウル内に吐水が納まるように調整してください。



⚠ 注意

必ず実行

吐水流量の調整は必ず行う

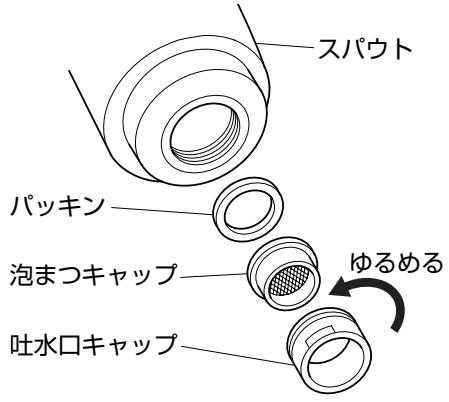
予期せぬ使用をされた場合に、吐水が汚物流しの外に飛び出し、財産に損害を与える原因になります。

流量が少ないときや、温度調節がうまくできない場合は、次の項目を確認してください。

●止水栓の確認
上記を参照してください。

●スパウト吐水口のゴミ詰まりの確認
吐水口のゴミ詰まりを取り除きます。

①吐水口キャップを回して外します。
外れないときは工具などを使用して外してください。



②吐水口キャップや泡まつキャップに詰まったゴミや汚れを、ブラシなどで取り除く。

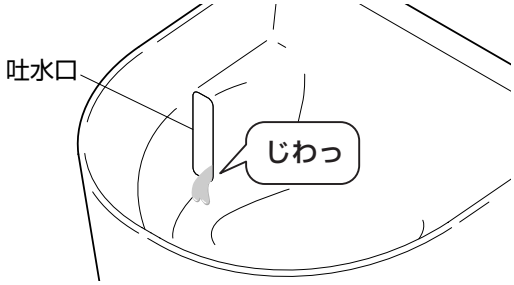
③吐水口キャップと泡まつキャップを取り付ける。

チェック 分解するときは、部品を紛失しないように注意してください。

電気温水器の膨張水処理について（電気温水器あり仕様の場合のみ）

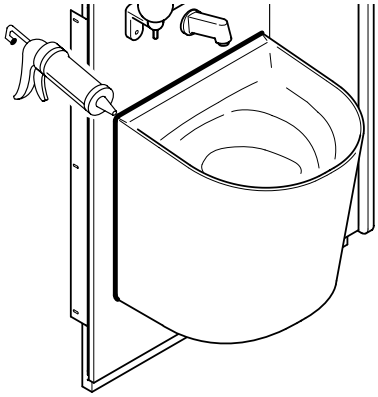
洗浄ボタンを押さない場合にも汚物流しの吐水口から、じわっとお湯が出る場合がありますが、異常ではありません。
これは電気温水器の中の、お湯の沸き上がりに伴う膨張水が排出されるものです。

STEP15で取り付けた、排水ホッパー、接続継手を介して洗浄管から汚物流しへ排出されます。
出てくるお湯は40℃以下ですので、やけどの心配はありません。



仕上げ

汚物流しの周囲をシリコンコーキングで仕上げることをおすすめします。
シリコンコーキングは別途手配です。



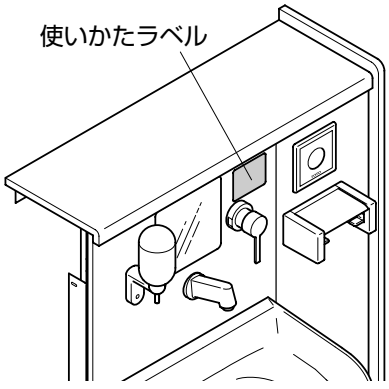
使いかたラベルの張り付け

製品に使いかたラベルを張り付けてください。

※使いかたラベルはフレーム部品箱に同梱

張り付けの推奨位置は器具裏前板のシングルレバーの上部です。

チェック　ラベルの張り付けは、確実に行ってください。張り付けない場合は、確実にお客様に渡してください。



同梱している取扱説明書の最後のページに必要事項をご記入のうえ、必ずお客様に渡してください。
また、使用方法も説明してください。
手渡しできない場合は、工事完了後目立つ場所に置いてください。